SEKISUI JUSHI CORPORATION

環境・社会報告書
Environmental & Social Report
2011

地球のいのち、つないでいこう

わたしたちは生物多様性に配慮しています。

積水樹脂株式会社

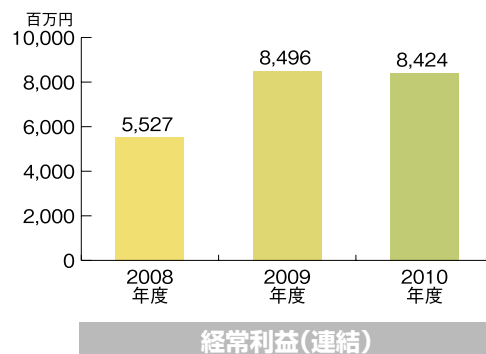
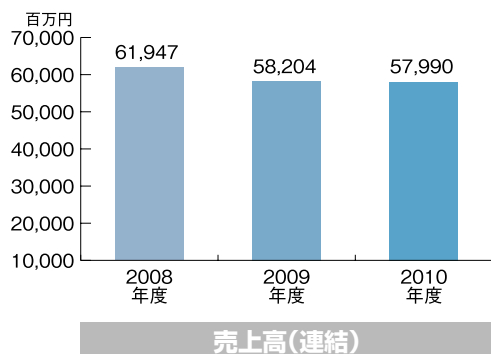
積水樹脂グループは、

価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献します

会社概要（2011年3月31日現在）

社名	積水樹脂株式会社	資本金	12,334百万円
本店所在地	〒530-8565 大阪市北区西天満二丁目４番４号	売上高（連結）	57,990百万円
設立年月日	1954年（昭和29年）11月26日	経常利益（連結）	8,424百万円
代表者	福井 彌一郎（代表取締役社長）	従業員数（連結）	1,231名
URL	http://www.sekisuijushi.co.jp/	国内連結子会社	23社
		海外連結子会社	7社

売上高（連結）

経常利益（連結）

主な事業内容

■都市環境関連事業

防音壁材、道路標識、サイン･看板、路面標示材、電子システム関連製品、交通安全資材、太陽電池製品、人工芝、人工木材等

■産業・生活関連事業

梱包結束用バンド･フィルム、梱包資機材、農業資材、施設園芸資材、物干用品、収納用品、組立システムパイプ、デジタルピッキングシステム等

■街路・住建関連事業

歩行者用防護柵、車両用防護柵、防風･防雪柵、車止め、組立歩道、高欄、公園資材、シェルター、ソーラー関連製品（シェルター･照明灯）、メッシュフェンス、めかくし塀、防音めかくし塀、外構製品、自転車置場、装飾建材、機能面材、手すり製品、アルミ樹脂複合板等

■その他事業

損害保険代理業他

道夢道
積水樹脂には、大規模試験走路「道夢道」と呼ばれる施設があります。これは、交通安全製品や景観資材製品を提供するにあたり、製品の信頼性を確かなものとするために、実際の設置条件のもとで実験を行う施設です。（滋賀県蒲生郡竜王町）

編集方針

本報告書は、積水樹脂グループの環境・社会活動についてご報告するとともに、環境・社会活動のさらなる向上をめざし、ステークホルダーのみなさんとコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
また、本報告書は会社案内も兼ねて作成し、積水樹脂グループの理念、事業活動、製品等についてご報告しています。
なお、掲載項目については、環境省「環境報告ガイドライン（2007年度版）を参考にしながら、積水樹脂グループの活動に照らして、重要な項目に絞って報告しています。

環境・社会報告書2011での改善点

「積水樹脂の経営ビジョン」のページを新設しました
2010年度に策定した「経営ビジョン2020」、中期経営計画「JEX-2013」をご紹介する「積水樹脂の経営ビジョン」のページを新設しました。

「特集」ページを新設しました
特に重要性が高いと考える課題に対し、当社グループがどのように取り組んでいるのかをまとめた「特集」ページを新設しました。

本報告書の対象

■対象期間
2010年度（2010年4月1日から2011年3月31日まで）
重要事項については、2010年度以前・以降のものも報告しています。
■対象範囲
積水樹脂株式会社および国内連結子会社23社

Contents

世界中の人々に信頼され、感動を提供し続ける“*Hybrid Value*
積水樹脂グループは歩み続けます。

代表取締役社長
福井彌一郎

被災地の復興のために「私たちだからできること」を進めます

このたびの東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞申し上げます。被災地の一日も早い復興を心より、お祈り申し上げます。

3月11日に発生したこの震災は、東北地方を中心に甚大かつ広域な被害を与えるとともに、電力不足問題をはじめとする経済的影響は、日本全体、全ての産業に及んでいるといえます。しかしながら、戦後の復興･急成長を成し遂げたわが国の底力は揺るぎなく、時間はかかっても必ずや見事に立ち直るものと私は確信しています。

当社グループでは、震災発生直後の支援活動として、被災地に義援金をお渡しするとともに、当社製品の室内物干しを支援物資として寄贈しました。また、グループの役員･従業員が各事業所で募金活動を実施し、義援金として被災地や被災従業員にお渡ししました。

そして私たちは、メーカーという立場から、長く培ってきた「安全･安心な道づくり、美しいまちづくり」に貢献する製品群とその総合提案力をもとに、事業を通じて日本復興へ微力ながら貢献してまいる所存です。それを具現化するために、5月に「東日本復興プロジェクトチーム」を組織し、社会貢献活動を開始しております。

「経営ビジョン2020」そして「JEX-2013」“*Hybrid Value Company*”に込めた想い

私たち積水樹脂グループは、「価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献」することを経営の理念として掲げ、都市環境、街路住建、産業生活などの幅広い分野で事業を展開しています。私は、この理念が示すとおり、社会的な課題に対して事業を通じてソリューション(解決策)を提供していくことこそが、当社のCSRの原点であると考えております。

Company ”を目指して、

また、時代･経営環境が大きく変化する中で、経営理念を補完するべく当社グループの目指すべき姿を明確にするため、次なる10年を見据えた「経営ビジョン2020」を掲げ、その実現に向けたファーストステージとなる中期経営計画「JEX-2013(Jushi-Expansion2013)」を2010年度よりスタートさせました。

「経営ビジョン2020」において、当社グループが目指すべき姿を“Hybrid Value Company”と定めました。Hybrid Valueという言葉に私たちの「事業」や「強み」、そして「使命」の意味を込めて、いかなる環境の変化にも対応できる強い企業グループを目指します。

「JEX-2013」では、「基盤事業の強化」「新規事業の創出」と「グローバル戦略」などの拡大戦略を基調とした展開に加えて、環境保全をはじめとする社会貢献活動にも積極的に取り組み、企業としての社会的責任を果たしていく決意を示しています。

2010年は「社会貢献元年」
環境面の取り組みも着実に

当社は、「JEX-2013」初年度である2010年を「社会貢献元年」と位置づけ、社会貢献活動に積極的に取り組む方針を打ち出し、新たな活動をスタートさせています。

環境面では「生物多様性の保全」を重要性の高い課題と考え、環境省の呼びかけで設立された「地球生きもの委員会」の活動に協賛し、10月にはCOP10サイドイベントにおいて感謝状を頂きました。また、「琵琶湖森林づくりパートナー」として琵琶湖周辺の森林保全活動を開始しました。今後、他の事業所にもこの活動を水平展開して、継続的に取り組んでまいります。

経営理念

積水樹脂株式会社は、プラスチックと金属、繊維その他の物質とを結びつけた、価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献し、会社の限りなき発展と従業員の豊かな生活を実現する。

▼ 経営理念を補完するべく、目指すべき姿を明確化

経営ビジョン2020

〜*Hybrid Value Company*を目指して〜

▼ ビジョンの実現に向けたファーストステージ

中期経営計画「JEX-2013」

〜 チェンジ(変革)なくして拡大なし 〜

拡大戦略を基調とした展開、CSR、社会貢献活動

環境への取り組みにおいては、第４次３カ年計画(2010年〜2012年)を新たにスタートさせました。この３ヵ年計画では、「事業･製品による環境貢献」「事業活動における環境負荷の低減」「環境経営の基盤強化」「生物多様性への配慮」を活動の項目とし、より高い目標を定め各分野における環境活動の強化･推進をしております。

さいごに

最後になりましたが、本報告書は、積水樹脂グループの環境ならびに社会的な取り組みの全体像をご紹介するものですが、まだまだ深めていかなければならない課題や改善点も数多くあります。これからも、ステークホルダーの皆様との一層のコミュニケーションを通じて、着実に活動を前進させ、社会に貢献してまいりたいと考えております。

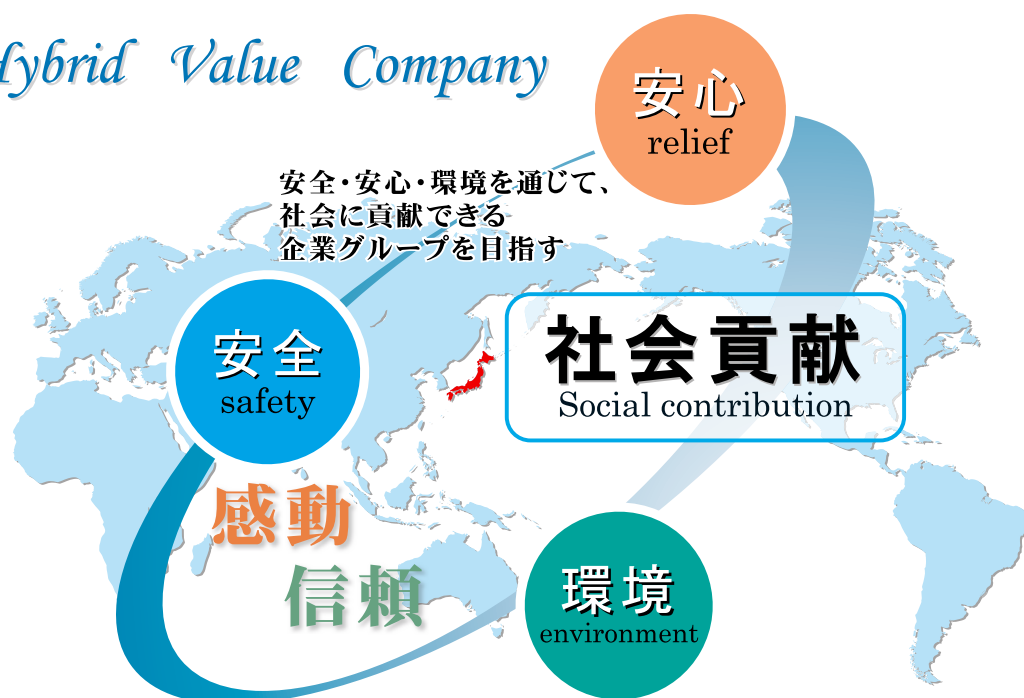
貴重なご意見、ご指導をいただければ幸いに存じます。

変化に即した事業経営を行なうため「経営ビジョン2020」を策定しました

時代・経営環境が変化する中で、経営理念を補完するべく積水樹脂グループの目指すべき姿を明確化し、変化に即した事業経営を行なうため「経営ビジョン2020」を策定しました。

経営ビジョン 2020

～Hybrid Value Company を目指して～

『価値ある製品の創造を通じて"世界の安全・安心" "地球環境の保全"に貢献し、世界中の人々に信頼され、感動を提供し続ける企業グループ』を目指します。

「経営ビジョン2020」の実現に向けて・・・

中期経営計画 JEX － 2013（Jushi - Expansion 2013）

「JEX－2013」

将来に向けたさらなる事業の拡大をはかるべく、「経営ビジョン2020」のファーストステージとして、中期経営計画「JEX－2013(Jushi - Expansion 2013)」をスタートさせました。

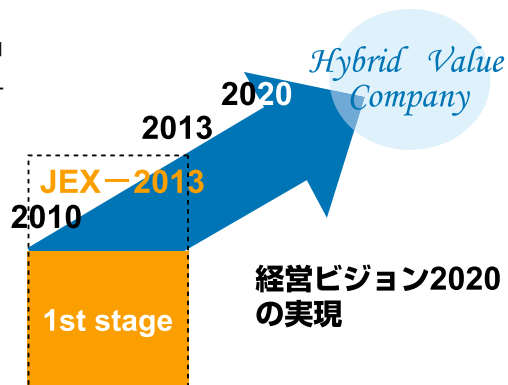
数値目標

■期間

2011年3月期～2013年3月期(3ヶ年計画)

■目標：最終年度(2013年3月期)

・連結売上高：700億円　・連結営業利益：100億円

2010
JEX－2013
1st stage
2013
2020
Hybrid Value Company
経営ビジョン2020の実現

地球環境調和型製品「ソーラー発電製品」のあゆみ

自然の恵みから得られるエネルギーを活用するソーラー発電は、低炭素社会の実現には欠かせない存在です。積水樹脂は1980年から、このクリーンエネルギーに着目。ソーラー発電技術を活用した交通安全製品の開発・販売を開始し、はやくも四半世紀が経過しました。

1980年 単体製品から

太陽電池式発光誘導灯
サンボーイ

進化

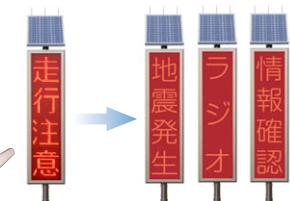
2010年 システム製品へ

ソーラー発電
シェルター

■屋外公共空間での技術ノウハウの蓄積[単体製品]

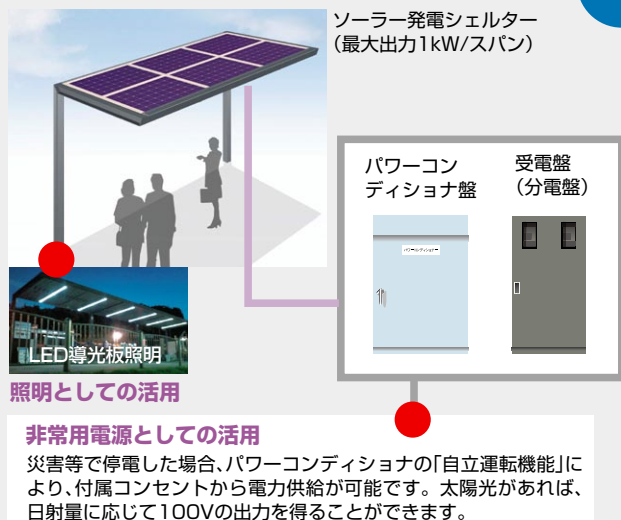
1980年当初は電気変換効率が低く、発光輝度向上や道路線形に応じた多様な発光パターンをいかにして標準搭載するのか、地域で異なる温湿度、日照条件対応など試行錯誤を繰り返し、様々な屋外公共空間への設置実績と技術の蓄積を重ねてきました。また、1995年に発生した阪神淡路大震災からの教訓を活かしたソーラー照明灯開発、避難誘導サインへのソーラー照明灯装備など、災害時に活躍する独立電源型製品も多数開発。2011年3月の東日本大震災では緊急地震速報などの防災情報をリアルタイムに表示する「防災対応ソーラーLED情報板」が活躍しました。

信号のない交差点で出会い頭事故抑止に貢献します「センサーリード」(1995年)

夜間道路線形をドライバーに伝え注意喚起を促します「リニアポインタ」(1997年)

日常は道路交通情報を提供し、災害発生時は「緊急地震速報」をリアルタイム表示「防災対応ソーラーLED情報板」(2009年)

「アーバンソーラー」照明灯風力併用タイプ(2010年)

■「単体製品」から「連携する発電システム」に発展[システム製品]

屋外公共空間には電力を必要とする様々な施設があり、電気自動車充電インフラもそのひとつです。大面積のシェルター屋根を活用することで多くの電力を生み出せないだろうか…という考えから2010年太陽電池を屋根材とする「ソーラー発電シェルター」を京セラ株式会社と共同開発。パワーコンディショナーを介し電力をさまざまなアプリケーションに供給可能とし、さらに余剰電力を電力会社へ「売電」できるなど、シェルターを「発電施設」とした電力の「連携」を実現しました。今後も屋外公共空間製品のリーディングカンパニーとしてさらなる地球環境の保全への貢献を目指し、研究・開発をすすめてまいります。

2010年を“社会貢献元年”と位置づけ、各分野に対する社会貢献活動を推進しました。

当社は、中期経営計画「JEX-2013」初年度である2010年を“社会貢献元年”と位置づけ、社会貢献活動に積極的に取り組む方針を打ち出しました。2010年は特に「生物多様性」をテーマにした新しい取り組みを開始しました。

生物多様性の保全に向けた取り組み

私たちのいのちや暮らしを支える多種多様な生きもののつながり「生物多様性」。この恵みを未来につなげるために、当社グループは様々な活動主体と連携し、「生物多様性の保全と持続可能な利用」に積極的に取り組んでいます。

「地球生きもの委員会」の活動を応援しました！

地球生きもの委員会の活動へ協賛

2010年は、国際生物多様性年。COP10が愛知で開催されるなど、国内外で生物多様性の重要性が注目された年でありました。このようななか、当社は環境省の呼びかけによって設立された「地球生きもの委員会」の活動に協賛し、国内第1号となる寄付を行いました。

2010年10月には、COP10サイドイベントに協賛企業を代表して招待され、感謝状を頂きました。

（左）環境省 近藤副大臣
（中）積水樹脂 福井社長
（右）地球生きもの委員会 涌井委員長代理

そしてこれからも・・・

国連は、2011年からの10年間を「国連生物多様性の10年」と位置づけ、「地球生きもの委員会」も、国内での啓発活動を中心に取り組みを継続することとなりました。当社も、この取り組みを一過性のもので終わらせないために、引き続き協賛を行ない、今後も同委員会の活動を応援していきます。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

生物多様性や委員会の活動についてもっと知りたい方は…

地球生きもの委員会　公式ホームページ
http://iybj.jp/index.html

「琵琶湖森林づくりパートナー」としての活動を開始しました！

森林づくりを通じて琵琶湖の水源を守る活動

滋賀県に主力生産拠点を持つ当社が、琵琶湖のためにできること。2010年11月に、当社は綿向生産森林組合（滋賀県蒲生郡日野町）と「琵琶湖森林づくりパートナー」協定を締結しました。この協定は、琵琶湖東部の日野川上流で同森林組合が管理する森林（13ha）の整備のために、5年間にわたる支援を契約するものです。森林づくりの費用の提供のほか、滋賀工場従業員とその家族が、間伐作業などに実際に参加することで、身近な自然環境や生きものについて考える良い機会になっています。

滋賀工場の従業員とその家族が活動に参加しました

そしてこれからも・・・

これからも、従業員参加型の生物多様性保全の取り組みとして、活動を推進していきます。また、同森林組合との協働や意見交換をさらに深め、林業分野で貢献できる新製品の開発など、事業活動にもフィードバックしていきます。

VOICE

綿向生産森林組合
組合長理事
成 橋　豊 司 氏

昨年11月に積水樹脂株式会社と協定締結を終え、11月20日には早速当組合林での「森林保全活動」として、社員とそのご家族50名の方々に、「間伐」体験を熱心に取り組んで頂きました。
生き物全ての共通基盤である「森」は次世代に引き継ぐ「宝物」であり、川上から川下まで、皆んなが守ってゆくためにも、森林の保全は欠かせません。
環境問題・獣害問題などと向き合い、共に協力しながら森林保全に取り組んで参りたいと考えます。

東日本大震災 積水樹脂ができること

このたびの東日本大震災において被災された皆さまへ心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げますとともに、従業員一同全力を挙げて最大の支援を行ってまいります。

地震発生初期における支援活動

積水樹脂グループより義援金や支援物資を寄贈しました。

被災された方々の救援や被災地の復興に役立てて頂く為に、当社グループからの義援金として、１千万円の支援を行いました。

また、当社製品の室内物干しや食品トレー、ポリタンクなどの救援物資を被災地に寄贈しました。

朝日新聞厚生事業団に義援金を寄付

積水樹脂グループ役員・従業員一人ひとりの思いを被災地、被災従業員に届けました。

被災地や被災した仲間のために、今私たち一人ひとりができることをしよう。このような思いから積水樹脂グループでは震災発生直後より、各事業所において募金活動を実施しました。活動の結果、414万８千円の寄付が集まり、被災地や被災従業員に対して義援金としてお渡しすることができました。

そしてこれからも・・・

「東日本復興プロジェクトチーム」を設置し、被災地の復旧・復興に貢献していきます。

「安全・安心な道づくり、美しいまちづくり」に貢献する製品を数多く手がけている積水樹脂だからできること。2011年5月に、当社は設計や開発部門の人員で構成する「東日本復興プロジェクトチーム」を設置し、各メンバーを東北支店（宮城県）に派遣しました。

測量などの技術支援活動に取り組むとともに、「災害に強いまちづくり」に有用な製品を都市計画のグランドデザイン段階から提案することで、被災地の一日も早い復旧・復興に貢献していきます。

「東日本プロジェクトチーム」が、被災地の高欄復旧のため、技術支援を行ないました

高欄復旧測量

宮崎県口蹄疫被害に対する義援金

積水樹脂グループ役員・従業員の協力で寄付が集まりました。

宮崎県では、2010年4月の家畜伝染病「口蹄疫」の発生により畜産農家のみならず、様々な分野で甚大な被害がもたらされました。この事態の深刻さをうけ、積水樹脂は、グループ一斉に募金活動を実施しました。活動の結果、300万円の寄付が集まり、宮崎県と宮崎県JA畜産防疫対策本部に対して義援金としてお渡しすることができました。

宮崎県保健福祉部に義援金を寄付

ＪＡ宮崎中央会に義援金を寄付

「安全・安心・環境保全」をキーワードとして、ゆたかな暮らしをサポートします。

日常生活のあらゆる場面で「安全・安心・環境保全」につながる製品、年齢、世代を問わず、さまざまな立場にある、全ての人々が安心して暮らせる「環境づくり」に役立つ製品の創造を通じて社会貢献してまいります。

都市環境関連事業分野

交通環境資材関連製品

①太陽電池式自発光分離帯鋲“アイランドフラッシュ”
②車線分離標“ポールコーンG”
③視線誘導標“景観型リサイクルデリニェーター”
④防災サインシリーズ“津波注意警告サイン”
⑤速乾性カラー舗装材“ジスカラーＡＰ”
⑥高規格道路向け“ハイドロクリーン透明板”

太陽電池や電子技術、道路周辺の景観や防音・遮音技術を駆使し、ドライバーにとって安全で快適な走行空間づくりに貢献します。

スポーツ・人工木関連製品

①ベースボールグラウンド専用人工芝“ベースボールターフ”
②ロングパイル モノフィラメント人工芝“ドリームターフ”
③オレンジウッドデッキ材

天然芝の良さを限りなく追求し、快適なスポーツ環境を創造する人工芝“ドリームターフ”や自然と人間の調和をコンセプトに、廃プラスチックと廃木粉を原料とし、独自の複合成型技術から生まれた新素材“オレンジウッド。誰もが親しみやすく、使いやすい、高い耐久性を誇る公園施設アイテムをご提供しています。

街路・住建関連事業分野

街路・橋梁関連製品

美しい街づくりに貢献する高い意匠性と交通安全製品で培ったノウハウを活用した安全機能。これからの人中心のみちづくりにおけるさまざまなシーンで、歩行者にとって安心できる街路空間づくりに貢献します。

①ソーラー照明灯“アーバンソーラーシリーズ･風力併用タイプ”
②都市空間に調和する人にやさしい防護柵“アーバンレイルシリーズ”
③再帰反射弾性車止め“GDK－9”
④補修物件向け橋梁用ビーム型防護柵“ビューレイル”
⑤太陽電池・屋根一体型タイプ“ソーラー発電シェルター（系統連系型）”

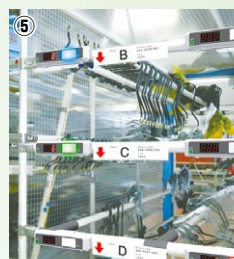
昼間　夜間ライト照射時

太陽電池一体型ルーフ

産業・生活関連事業分野

産業資材関連製品

①環境配慮型梱包用バンド "ゆうグリーン"
②ストレッチフィルム "レスコア"
③ストレッチ包装機
④組立パイプシステム "スペーシア"
⑤デジタルピッキングシステム "キャップアイシステム"

物流関連製品は、リアルタイムのレスポンスが要求されるお客様のニーズに、国内外でのトップシェアを占めるPPバンドをはじめ、多彩な物流・包装資材を品揃えし、また自動梱包機や包装機、ピッキング支援装置など、物流の総合メーカーとして貢献します。

生活・緑関連製品

①つっぱり式ポールハンガー "あいツリー"
②つっぱり式窓枠ものほし
③農園芸用支柱 "若竹"
④農園芸用トンネル支柱 "若竹"
⑤家具転倒防止圧着Wポール

人にやさしく快適で便利な製品、斬新で新しいデザイン…。創意工夫や想像力を駆使した生活用品で、豊かなライフスタイルづくりに貢献します。また、農業・園芸関連製品では、支柱やハウス資材など、工夫やアイデアを盛り込んだ製品で省力化と環境緑化に大きく貢献します。

住建材関連製品

景観に調和するシンプルなデザイン、隣地からの騒音など住環境を取巻く諸問題解決にも貢献する高機能製品を生み出しています。また、ラミネート技術と樹脂配合技術から生まれ、軽さ、強さを実現した独自マテリアル「メタカラー」「プラメタル」。建築内空間を美しく演出しています。

①外構メッシュフェンス "GO高耐久タイプ"
②防音めかくし塀 "M型防音タイプ"
③工事用防音仮囲 "プラメタル・ビルガードシステム"
④金属・樹脂複合建材 "メタカラー"

環境報告

環境報告 Environment

地球のために。
子供たちの未来のために。

積水樹脂グループは、持続可能な発展にむけて環境保全、環境教育、ソーラー製品など環境調和型製品の開発及びCO_2排出量削減などのものづくりにおける環境配慮などの取り組みを推進します。

環境経営理念

我々は、かけがえのない母なる「地球」を、環境破壊・資源枯渇等、地球環境問題から保護することを最重要課題と認識し、地球に優しい環境調和型製品・事業活動を通じて「地球と人類の永続的調和」及び「人間性豊な生活環境づくり」に貢献します。

環境経営方針

「資源は節減・循環、廃棄はゼロ、環境は改善・保全」

1. 地球環境に対し、「廃棄はゼロ、環境は改善・保全」を通じて社会的責任を果たします。
2. 地球環境調和型製品の開発を通じて、「資源は節減・循環」に貢献します。

写真：綿向山（滋賀県蒲生郡日野町）
綿向山で「琵琶湖森林づくりパートナー」協定に基づき森林保全活動を進めています。

積水樹脂グループ 一丸となって環境活動に取り組んでいます。

第4次環境3ヵ年計画（2010年度～2012年度）環境活動の取り組み

地球環境調和型製品の取り組み

＜2010年度目標＞

地球環境調和型新製品

・売上比率：25%以上
・上　市　数：36件以上

＜2010年度実績＞

売上比率
21.0%
上市数
45件

CO_2排出量削減の取り組み

詳細報告 18ページ

＜2010年度目標＞

CO_2排出量原単位（※1）
（2005年度比）

20.5%以上削減

＜2010年度実績＞

16.9% 削減

廃棄物排出量削減の取り組み

＜2010年度目標＞

有価物含む廃棄物発生量
（2005年度比）

・排出量：35%以上削減
・原単位：34%以上削減

＜2010年度実績＞

排出量
32.2% 削減
原単位
27.0% 削減

化学物質排出・移動量削減の取り組み

＜2010年度目標＞

PRTR法にもとづく
化学物質排出・移動量
（2008年度比）

13%以上削減

＜2010年度実績＞

14.8% 削減

生物多様性へ配慮

森林保全活動への取り組み

＜2010年度実績＞

・地球いきものサポーターとして
「地球生きもの委員会」の活動に協賛
・「琵琶湖森林づくりパートナー」への参画

資源の有効活用

リサイクルへの取り組み

＜2010年度実績＞

・広域認定制度に基づく
「樹脂製視線誘導標」リサイクル推進
・ペットボトルキャップ
リサイクルへの取り組み推進

その他

環境推進体制・環境活動のあゆみ

1998年に制定した「環境経営理念」・「環境経営方針」を基本理念とし、2010年に策定した中期経営計画（JEX-2013）に基づき環境への取組みを推進してまいりました。2010年度は、新たに森林保全活動に着手しました。

データ編：環境推進体制・環境活動のあゆみは37ページ

環境会計

環境保全活動に要した費用、それから得た環境保全効果とそれにともなう経済効果を定量的に把握して評価し、より効率的な環境保全活動の推進をはかっています。

データ編：2010年度実績の詳細は38ページ

環境へのかかわり

事業活動におけるエネルギー、原材料等の「インプット」、そして環境への排出量や廃棄物などの「アウトプット」をマテリアルバランスの考えにもとづき環境会計の中で集計しています。

データ編：マテリアルバランスは41ページ

環境マネジメントシステム体制

主要生産事業所では、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、認証登録を継続しています。

データ編：ISOの認証取得状況は42ページ

（※1）原単位　製品の一定量を生産するのに必要な各生産要素（エネルギー、原材料など）の量及び排出される環境負荷量（CO_2、廃棄物）です。

環境に配慮した製品の開発を積極的に進めています。

積水樹脂グループは、製品の開発・設計から使用・廃棄までのあらゆる段階で環境に配慮した地球環境調和型製品を通して、環境負荷の低減に取り組んでいます。

地球環境調和型製品とは

社内基準を満たす、環境面で有利な製品です

積水樹脂が考える地球環境調和型製品は、設計・使用・廃棄(リサイクル)の段階、もしくはその他の項目に対して自社で定めた基準を満たす、環境面で有利な製品をいいます。

地球環境調和型製品の基準

地球環境調和型製品は次のいずれかの社内基準を満たします。

■製品のライフサイクルのいずれかの段階において環境負荷を低減させるように設計された製品

■エコマーク認定基準に適合した製品

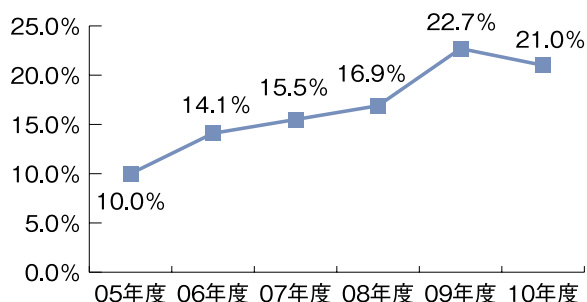
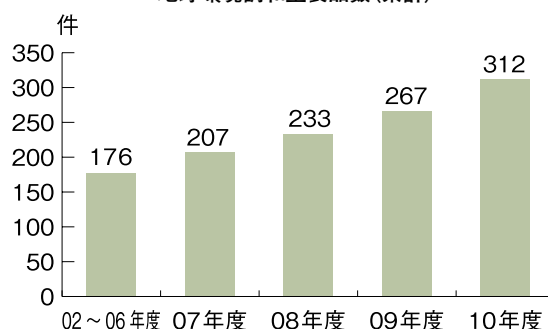
■納入先が指定する環境基準を満足するように設計された製品

地球環境調和型製品の製品売上高比率と製品数

製品を通じた環境負荷低減へ貢献するため、第4次環境3ヵ年計画最終年度(2013年度)では地球環境調和型製品の売上比率を35%以上にすることを目標に掲げて推進しています。

2010年度は売上比率25%以上の目標に対し、21.0%と2009年度を下回る結果となりました。

地球環境調和型製品の製品数は着実に増加しています。2013年度の売上比率目標達成に向けて、そして環境負荷低減に貢献できるよう、地球環境調和型製品の更なる拡販に注力していきます。

地球環境調和型製品の製品売上高比率

地球環境調和型製品数(累計)

地球環境調和型製品の製品売上比率は、以下の式により算出します。

$$\text{地球環境調和型新製品の売上高比率} = \frac{\text{地球環境調和型新製品売上高（※1）}}{\text{製品売上高（※2）}}$$

(※1) 2002年度以降認定された地球環境調和型製品の当該年度の売上高

(※2) 当該年度の製品売上高合計

再生材の利用

廃プラスチックや廃木粉、廃タイヤゴムなどを再利用し製品化しています。

オレンジウッドベンチ

オレンジウッドデッキ

テンダーウッド柵

スーパーオレンジウッド高欄

人工芝用充填材
（ドリームターフ）

車止め
（DK-5）

環境配慮型梱包用バンド
（ゆうグリーン）

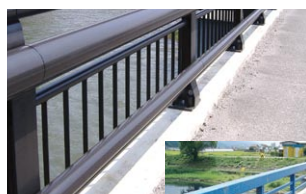
農園芸用支柱
（若竹）

ノンクロムタイプの塗料の採用

ビルガード

FR外装パネル

アルミ樹脂複合板
（プラメタル・アートパネル・ビルガード・FRシリーズなど）

既存施設や構造物の活用

高欄
（ビューレイル）

使用材料削減

芯材の紙使用量を約1/10に削減

ストレッチフィルム
（レスコア）

クリーンエネルギー活用

ソーラー照明灯
（ソーラーライトSLV）

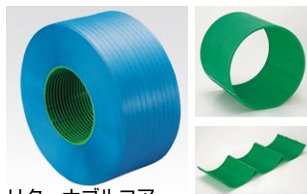
ソーラー表示灯
（ワイドフラッシュ）

生産工程での環境負荷低減

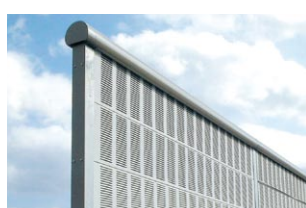
パネル部材の無溶接化

勾配対応柵
（フレックスローブ）

リユース・使用材料削減

芯材をリユース可能な樹脂製へ変更

リターナブルコア
（ゆうバンド）

機能付加による環境負荷の低減

遮音効果
（薄型低層遮音壁）

Nox削減効果
（Nox削減防音壁）

防音効果
（防音めかくし塀）

都市環境関連事業分野

薄暮時／高輝度発光

夜間時／通常発光

①固定ビスを外して製品を取り出す　②交換枠に新しい製品を収め、ビスで固定

ジスロン　グラウンドフラッシュ　クリーンエネルギー活用

夕暮れ時の事故多発時間帯に従来品より強い注意喚起をする、簡単に交換できる自発光埋設鋲です。

■環境にやさしい太陽電池式

電源はクリーンな太陽エネルギー。
太陽光から充電して発光する経済的製品です。

■従来品よりも早い時間帯から発光を開始し、事故の多い時間帯での交通安全に配慮しています。

当社従来品は、日暮れと共に発光しますが　本製品は薄暮時から発光するため、事故の多い時間帯での交通安全に配慮しています。

■製品メンテナンスを容易にする樹脂製の交換枠

自発光埋設鋲の交換を容易にしました。

デッキ

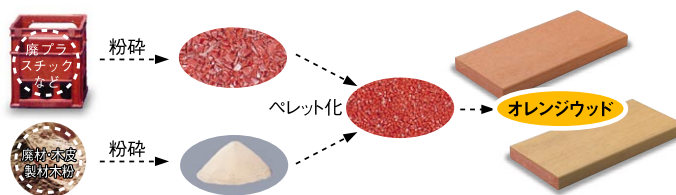
フェンス

パーゴラ・ベンチ

人工木材　オレンジウッド　再生材の利用

天然木のやさしさと、木をしのぐ耐久性が環境との調和を保ちます。

●水に強く、吸水がほとんどない事から、腐朽しにくい素材です。
屋外で長い間安全にご使用いただけます。
●木工具での切断や穴あけ加工が可能です。二次製品のため天然木材のような性能のばらつきが少ない製品です。
●紫外線に強く色あせしにくい素材です。

■ リサイクルの流れ

街路・橋梁関連事業分野

WSLV1-330PL

ソーラー照明灯 SLVシリーズ「風力併用タイプ」　クリーンエネルギー活用

普段は環境に配慮した照明として、いざという時は緊急時照明として、ご利用いただけます。

環境効果

約25.1kg[/年]のCO_2排出量削減（※1）
（LED：3.6W×3個を14時間調光点灯させ、且つ制御部回路消費電力を考慮し、122.7W[/日]消費すると仮定して算出

杉の木 約1.8本分のCO_2吸収量に相当
（25.1kg[/年]を杉のCO_2吸収参考目安量（14kg）（※2）で割り算出）

（※1）：「CO_2削減量」共通の計算条件
・年間消費電力は、1日14時間調光点灯時の消費電力を基に算出しています。
・CO_2排出係数は、環境省より公表された代替値（0.000561t-CO_2kWh）を用いています。
（※2）：50年生のスギ人工林　1本当り年間二酸化炭素吸収量を約14kg（岐阜県の収穫予想表に基づく試算値）として試算しています。
（「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」環境省・農林水産省 林野庁作成のパンフレットより抜粋。）

メッシュフェンスG0高耐久タイプ　高耐久

公共事業に最適な高耐久タイプのメッシュフェンスです。

■優れた耐久性

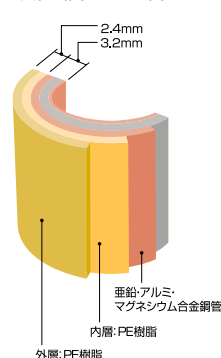
鋼管には亜鉛・アルミ・マグネシウム合金鋼管を使用し、耐久性を向上しました。

■飛砂に強い

支柱の樹脂被覆及びパネル・金具の流浸塗装により耐久性と耐飛砂性を向上しました。

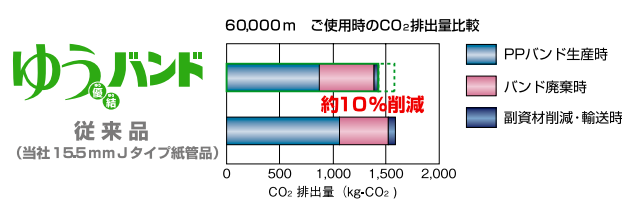
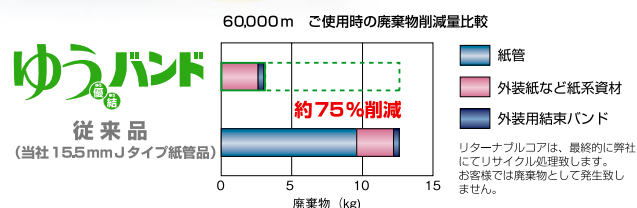
■施工性への配慮

パネルを仮置きしながら設置できる簡単施工製品です。

支柱断面イメージ図

産業・生活関連事業分野

手に優しく、開梱後のバンドもかさばらない全く新しいタイプの自動梱包機用バンドです。　環境保全／軽量化／使用材料削減

- ●やわらかく手にも荷物にも優しい、全く新しいタイプのPPバンドです。
- ●バンド特有の反発を抑えているため、開梱後のかさばるバンドのゴミも結んでコンパクトに廃棄出来ます。
- ●やわらかくても、今お使いの自動梱包機（※1）及び半自動梱包機でご使用いただけます。
- ●長尺巻き仕様によりバンド交換頻度が低減、作業効率がアップします。
- ●セキスイ独自の製造技術を用いたエコ設計により「CO_2排出量」を約10%削減することが出来ます。（当社15.5mmＪタイプと15mmゆうとの比較）
- ●環境に配慮した「リターナブルコア」の採用と長尺巻仕様によりご使用後の廃棄物（外装紙・紙管等）が約75%削減できます。（当社15.5mmＪタイプと15mmゆうとの比較）

（※1）：大型アーチ及び特殊梱包機には対応できない場合がありますので事前テストされることをお薦めします。

農園芸用ECO支柱　若竹・若節竹・トンネル支柱

再生材の利用

農園芸用支柱・若竹

農園芸用トンネル支柱

再生原料配合の被覆原料を使用した環境配慮型農園芸用支柱です。

- ●再生原料配合の被覆原料を使用しています。
- ●包装ラベル簡素化により省資源化しています。
- ●当社独自の水密キャップ採用で腐食に強く、耐久性に優れます。

地球環境調和型製品・施工事例紹介

再生材の利用

再生材の利用による環境負荷の低減

ドリームターフMV2055

再生ゴムチップを利用して、より天然芝の性能に近づけた人工芝です。充填材には、積水樹脂が開発した特殊温度抑制チップ「クールフィル」を使用。人工芝の温度上昇を抑え、熱中症のリスクを低減します。（芝浦小学校）

再生材の利用と優れた耐久性による環境負荷低減

オレンジウッド

優れた耐久性で空間ニーズに応える人工木材により魅力ある素材空間をコーディネートします。
（熊本県八代市日奈久公園）

太陽エネルギーの利用

太陽電池駆動で環境対策（CO_2削減）が可能

オプトマーカーⅣ

昼夜問わず注意喚起を促す24時間発光LED電光表示板です。凍結事故の多い夜間において、ドライバーに確実な注意喚起を促します。太陽電池で駆動するためドライバーだけでなく、地球にもやさしい製品です。（富山県氷見市）

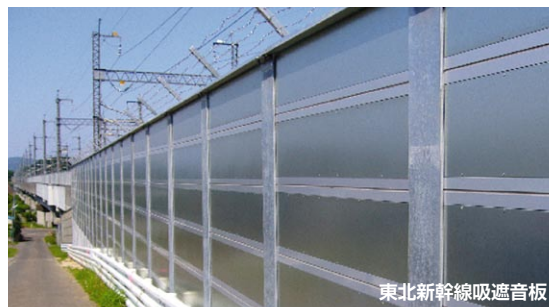
機能付加による環境負荷の低減

アルミ樹脂複合板による騒音低減

仮設防音パネル「ビルガード」

アルミ樹脂複合板が、工事現場から生じる騒音を軽減するとともに、その美しい形状により、まちの景観維持に貢献します。（姫路城）

遮音板による効果的な騒音の低減

東北新幹線吸遮音板

電車の通行騒音が響きやすい環境でも、吸遮音板が効率的に騒音を吸収し、周辺環境への影響を抑えます。
（福島県西白河郡）

既存施設や構造物の活用

既存施設を補修することで長寿命化

ビューレイル

既存施設を活用し、できるだけ少ないコストで機能を高度化する「ストック活用型更新」により、橋梁のライフサイクルコストの削減と長寿命化により、環境負荷低減に貢献します。（滋賀県）

エネルギー使用量・CO_2排出量削減への取り組みを進めています。

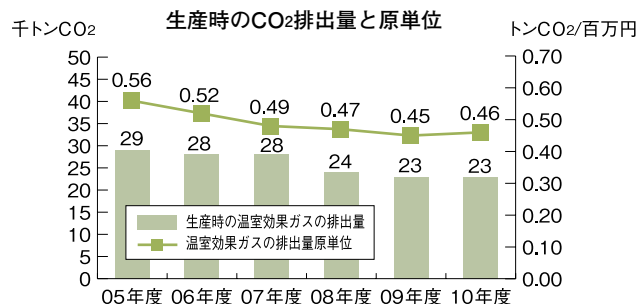
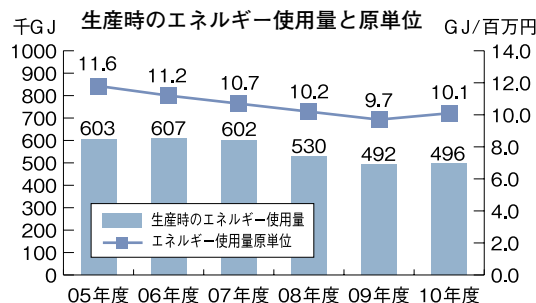
温室効果ガス排出量の削減を環境経営上の重要課題のひとつと位置づけ、生産・物流・オフィス部門でさまざまな取り組みを行っています。

生産・物流部門のエネルギー使用量、CO_2排出量削減への取り組み

生産部門のエネルギー使用量、CO_2排出量削減への取り組み

各生産事業所において、生産プロセスや、空調・照明設備等の改善・適正管理を行い、生産時のエネルギー使用量削減・CO_2排出量の削減に取り組んでいます。

2010年度の実績は、エネルギー使用量原単位12.6%削減(2005年度比)、CO_2排出量原単位16.9%削減(2005年度比)となりました。

第4次環境3カ年計画目標達成に向けて、生産プロセスの改善や省エネ型照明設備への切り替え、エネルギーの見える化・節電対策など、ハード・ソフトの両面から取り組みの強化をはかっていきます。

物流部門 輸送における省エネルギーの推進

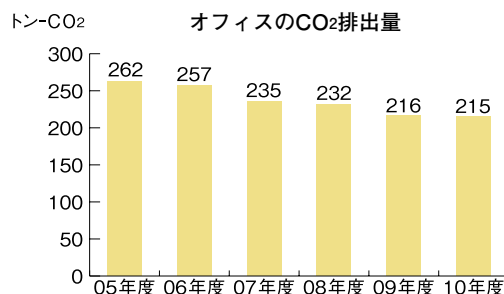
積水樹脂は、製品輸送における環境負荷の低減も重要な課題の一つとしてとらえ、運送業者の協力を得ながら、輸送の効率化に取り組んでいます。

エネルギー使用の合理化に関する判断基準を遵守し、更に物流のCO_2排出量削減をはかるため、「輸送方法の改善」「輸送ルート」「積載効率」の観点で輸送の効率化を推進しています。

これら活動の結果、2010年度は輸送にかかるエネルギー使用量原単位を2005年度比で17.3%削減することができました。第4次環境3ヵ年計画の20%以上削減(2013年目標)に向けて、今後も継続して輸送効率改善に取り組みます。

オフィス部門のCO_2排出量削減への取り組み

オフィスにおける省エネルギーの推進

オフィス部門においては、事務所の統廃合等を推進し、2010年度の排出量削減実績は、2005年度比で18.1%削減となりました。また継続的な省エネ活動として「クールビズ推進」・「パソコン・ディスプレーの省電力モード化」等、共通指針を設定し、積水樹脂グループ全体で取り組んでいます。

2011年度は・・・節電への対応、省電の推進

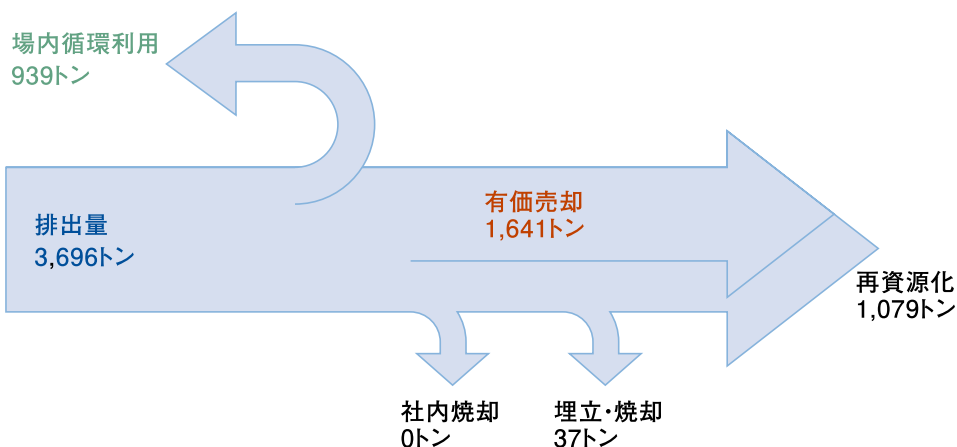
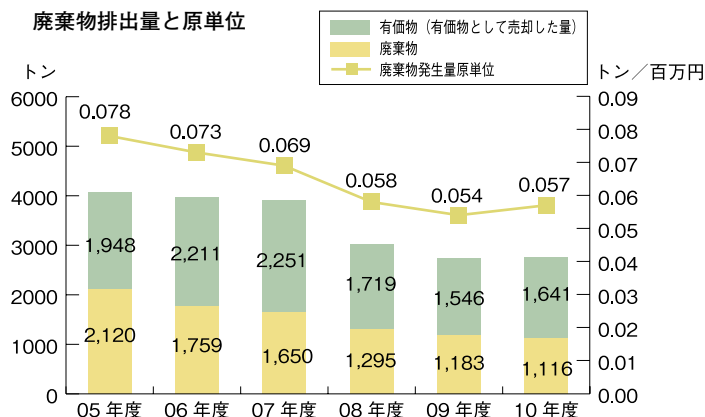
2011年3月に発生した原発事故を受けて電力不足が懸念される中、各電力会社の節電目標に対応・協力すべく、積水樹脂グループは、操業形態の調整や稼働時間の変更などを検討・実施します。また、「クールビズ」「LED照明導入」「遮熱対策(遮熱シート・みどりのカーテン)」など、各種省電対策を強化し、推進しています。

廃棄物削減への取り組みを進めています。

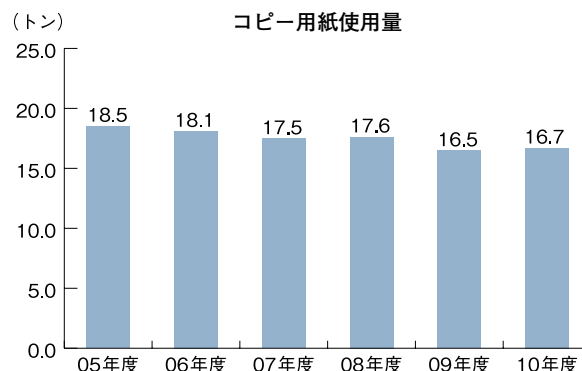
生産・オフィス部門で廃棄物の削減に取り組んでいます。

生産事業所における廃棄物削減の取り組み

有価物も含めた廃棄物の削減に取り組んでいます。

2010年度より、「排出物」の削減を目的として、有価物を含めた廃棄物の削減目標を設定し、取り組みを行っています。
各生産事業所においては、生産工程における歩留まり改善・不良率の低減活動を推進しました。2005年度比での削減量は32.2%となりましが、有価物を含めた廃棄物排出量は前年より増加しました。今後、第４次環境３カ年計画の達成に向けてさらなる「３Ｒ」(Reduce：廃棄物の発生抑制、Reuse：再使用、Recycle：再資源化)活動の強化を図っていきます。

オフィスにおける廃棄物削減の取り組み

コピー使用量を2005年度比で10%削減しました。

本社・支店などで発生する廃棄物を削減するため、コピー用紙の使用量削減を目標に掲げ取り組んでいます。
使用済みコピー用紙の裏紙利用、両面、集約印刷の実施や、各種会議では、ペーパーレス会議を推進しており、2010年度は、2005年度対比で10%削減しました。

排出削減の取り組みや原材料の変更により化学物質による環境影響の低減に努めています。

2010年度のPRTR対象化学物質排出量・移動量

PRTR法(※1)に基づく対象物質排出量・移動量の集計結果は以下のとおりでした。

PRTR 対象化学物質名	単位	2010 年度実績						
		取扱量	排出量			移動量		場内無害化(※2)
			大気への排出量	公共用水域への排出	当該事業所における土壌への排出	下水道への排水の移動	廃棄物の当該事業所の外への移動	
エチルベンゼン	トン	26.1	3.0	0.0	0.0	0.0	1.9	21.2
キシレン	トン	28.0	5.0	0.0	0.0	0.0	1.8	21.2
6価クロム化合物	トン	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1,3,5－トリメチルベンゼン	トン	3.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	3.2
トルエン	トン	11.7	5.6	0.0	0.0	0.0	5.9	0.2
鉛及びその化合物	トン	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
フタル酸ビス（2－エチルヘキシル）	トン	24.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	トン	104.8	13.9	0.0	0.0	0.0	9.8	45.8

年間取扱量が全社合計で0.5トン以上のPRTR対象物質について記載

化学物質排出量・移動量削減への取り組み

PRTR対象化学物質の削減のために、対象化学物質の非含有タイプ原材料への切り替えや、製造プロセスにおける使用効率の改善などに取り組んでいます。

また、グループ共通の化学物質管理の指針により、積水樹脂グループ全体で、化学物質の使用量管理、紛失・盗難防止の強化にも努めています。

第4次環境3カ年計画では、2013年に化学物質排出量・移動量を2008年度比で15%削減の目標を設定しています。2010年の化学物質排出量・移動量は2008年度比で14.8%削減しました。

化学物質排出量・移動量

(注)年間取扱量が全社合計で0.5トン未満のPRTR対象物質も含めていますので、上記の表の数値とは一致しません。

(※1)PRTR法
PRTR法とは正式名称を「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」といいます。人の健康や生態系に有害なおそれがある化学物質について環境中への排出量及び廃棄物に含まれての移動量を事業者が自ら把握して、行政に報告し、さらに行政は事業者からの報告や統計資料を用いた推計に基づき排出量・移動量を集計・公表する制度です。

(※2)場内無害化
製造プロセスにて発生した溶剤ガスを焼却分解し無害化したものです。

使用済製品の回収・リサイクルに取り組んでいます。

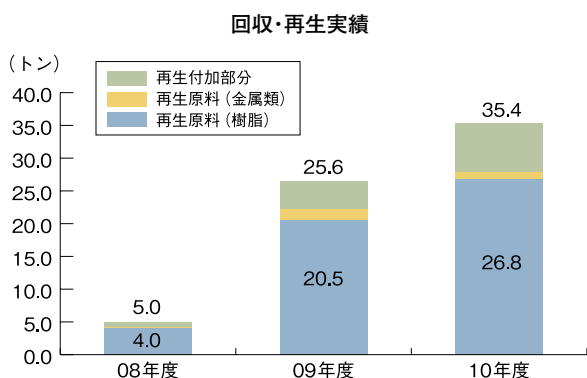
積水樹脂グループは、一部の製品で広域認定制度を取得し、使用済製品の回収・リサイクルに取り組み、限られた資源を有効に活用するとともに、CO_2の削減に貢献しています。

広域認定制度を活用した公共用製品のリサイクルへの取り組み

使用済みの樹脂製視線誘導標を35.4トン回収・再生しました。
(2010年度の実績)

積水樹脂は、資源の有効利用・廃棄物削減のため、当社独自素材であるジスロンパイプを使用した樹脂製視線誘導標(デリニエーター・スノーポール)について広域認定制度の認定を取得しています。
(認定日:2008年6月12日、認定番号:第145号)

広域認定制度に基づくリサイクルシステムを構築し、使用後廃棄処理される樹脂製視線誘導標を、再度原料として活用することで、建設廃材を他分野に流出させず、確実な環境負荷低減をはかっています。

毎年、使用済み製品の回収は増加し、2010年度では使用済製品を35.4トン回収し、26.8トンの再生原料(樹脂)が得られました。
得られた再生原料(樹脂)は、樹脂製視線誘導標の内層原料として活用しています。

広域認定制度とは?

製品が廃棄物となったものであって、当該廃棄物の処理を当該製品の製造、加工、販売等の事業を行う者が広域に行うことにより、当該廃棄物の減量その他その適正な処理が確保されることを目的として、廃棄物処理業に関する法制度の基本である地方公共団体毎の許可を不要とする特例制度です。

広域認定に基づくリサイクルの対象製品
①デリニエーター
②スノーポール

CO_2排出量削減にも貢献しています

使用済品の回収から再生原料化の過程で発生するCO_2は、バージン原料製造(資源採掘・採取から原料製造)の過程で発生するCO_2の約半分です(※1)。広域認定制度に基づくリサイクルを実践することで、CO_2排出量削減にも貢献できました。

2010年度のCO_2削減量試算:約19.3トン(※2)
(50年杉　約1,378本分の年間CO_2吸収量に相当(※3))

(※1)
バージン原料1kgあたりのCO_2排出量:1.43kg
(プラスチック廃棄物の処理・処分に関するLCA調査研究報告書(プラスチック処理促進協会)より)
再生原料1kgあたりのCO_2排出量:0.71kg
(2008年度の回収・再生実績を基に各工程でのCO_2排出量を算出)

(※2)
CO_2削減量は再生原料(樹脂)重量(26.8t)に(※1)のCO_2排出量の差(0.72kg)を乗じて算出しています。

(※3)
50年生のスギ人工林　1本当り年間二酸化炭素吸収量を約14kg(岐阜県の収穫予想表に基づく試算値)として試算しています。
(「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」環境省・農林水産省 林野庁作成のパンフレットより抜粋。)

TOPICS　ペットボトルキャップ　リサイクルへの取り組み

貴重な資源を有効利用するため、石川工場では地元団体と協力し、回収されたペットボトルキャップのリサイクルへの取り組みを開始しました。

地元で回収されたペットボトルキャップで製品を作っています。

ペットボトルに使われているキャップの多くは、リサイクルを目的として回収されています。石川工場では、地元石川県能美市の学校や諸団体から回収されたペットボトルのキャップを再生利用し、農業製品の部材（枝受けホルダー）を製造しています。

地元NPO法人「作業所連合福祉作業所はまなす」との連携

石川県能美市で集められたキャップは「作業所連合福祉作業所はまなす」へと送られ、分別・破砕・洗浄が行われます。その後、石川工場の協力会社にて再生原料に加工されます。

再生された原料は石川工場で農業製品（枝受けホルダー）に生まれ変わります。

環境効果と地元への貢献

再資源化による、省資源効果はもちろんのこと、廃棄物を地元で回収・再生し、製品化することで、物流過程で発生する温室効果ガスも最小限に抑えることができます。

また、リサイクルを通じて地元諸団体とのコミュニケーションにも貢献しています。

NPO法人
作業所連合福祉作業所はまなす
組合長理事
荒田 正信 氏

積水樹脂石川工場がペットボトルキャップを再資源として製品化される事により私たち「福祉作業所はまなす」では地球の環境を守る為の一役を担えるという想いでキャップの回収、破砕、洗浄作業を実施しております。

焼却ごみの削減、地元企業の資源としての再利用、福祉作業の確立すべてが市民レベルでチャレンジできる事となり、2011年3月22日には能美市の御協力により福祉作業所「エコステーションのみ（能美）」が開所致しました。

積水樹脂石川工場の御理解と御協力に感謝すると共に更なる製品化をお願い申し上げます。

滋賀工場

滋賀製造所

所　在　地：滋賀県蒲生郡竜王町大字西川字下中筋1321
主要生産品目：防護柵・交通安全資材・人工木材・シェルター
設 立 年 月：1971年5月
敷 地 面 積：61,569㎡

滋賀製造所

竜王鏡製造所（竜王）

竜王鏡製造所

所　在　地：滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731－1
主要生産品目：防音壁・メッシュフェンス・高欄・装飾建材
設 立 年 月：1987年6月
敷 地 面 積：129,415㎡

竜王鏡製造所（鏡）

安全への取り組み

労働災害撲滅を目標に「リスクアセスメントの推進」「コミュニケーション向上」「安全教育の強化」の観点で安全衛生活動を推進しています。「安全教育」では疑似体験設備による安全体験や、実技による安全教育をさらに充実させています。

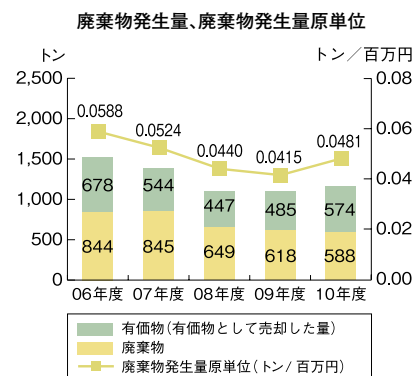
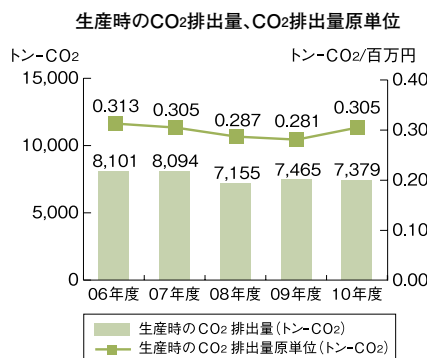
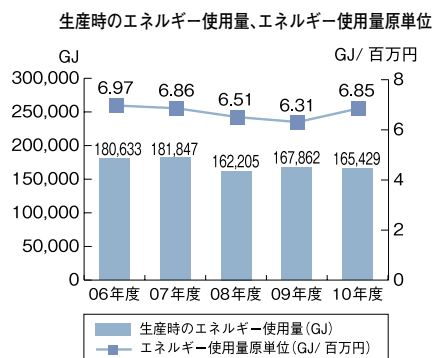
フォークリフト安全教育

環境貢献活動への取り組み

2010年度より、「琵琶湖森林づくりパートナー」に参画しました。また、その他にも「琵琶湖を美しくする運動」への協賛や、「エコキャップ運動」「緑の募金」など、様々な環境貢献活動を推進しています。

生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位

生産時のCO2排出量、CO2排出量原単位

廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位

■大気

物　質	滋賀製造所		竜王鏡製造所	
	実績値	規制値	実績値	規制値
SOx（K値）	不検出	17.5 以下	対象設備なし	
NOx（ppm）	18	230 以下		
ばいじん（g/Nm3）	0.008	0.2 以下		

■水質

物　質	滋賀製造所		竜王鏡製造所（竜王）		竜王鏡製造所（鏡）	
	実績値	規制値	実績値	規制値	実績値	規制値
水素イオン濃度（pH）	7.4	6.0～8.0	7.5	6.0～8.0	7.8	6.0～8.0
BOD（mg/l）	5.5	20以下	3.5	20以下	2.7	20以下
COD（mg/l）	7.8	20以下	8.8	20以下	2.8	20以下

■PRTR対象化学物質の量

PRTR 対象化学物質名	単位	取扱量	排出量			移動量		場内無害化
			大気への排出	公共用水域への排出	当該事業所における土壌への排出	下水道への排水の移動	廃棄物の当該事業所の外への移動	
キシレン	トン	1.2	1.0	0	0	0	0.2	0
トルエン	トン	2.2	2.0	0	0	0	0.2	0
フタル酸ビス（2－エチルヘキシル）	トン	24.6	0.0	0	0	0	0.2	0

土浦つくば工場

土浦製造所

所　　在　　地：茨城県土浦市東中貫町2－2
主要生産品目：路面標示材
設　立　年　月：1968年5月
敷　地　面　積：31,811㎡

土浦製造所

つくば製造所

所　　在　　地：茨城県牛久市桂町2200－3
主要生産品目：メッシュフェンス・手摺関連製品
設　立　年　月：1990年5月
敷　地　面　積：56,353㎡

つくば製造所

安全への取り組み

不安全行動の撲滅に向けた活動に注力し、安全活動を推進しています。安全大会については毎年２回開催し、全従業員の安全意識の向上に役立てています。2010年度には、10年連続無事故・無災害を達成しました。

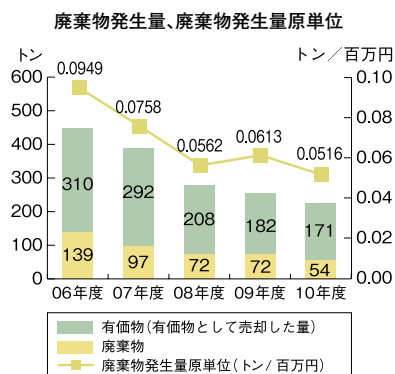
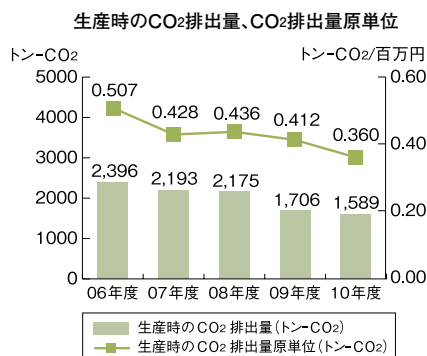
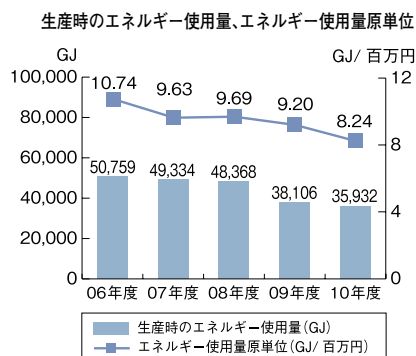
安全大会

環境への取り組み

加熱炉熱流出防止対策による熱効率の向上、油圧ユニットインバーター化、各種照明設備の見直し間引きなどを行い、エネルギー使用量・CO_2排出量を削減できました。

生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位

生産時のCO_2排出量、CO_2排出量原単位

廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位

■大気

物　質	土浦製造所		つくば製造所	
	実績値	規制値	実績値	規制値
SOx(K値)	対象設備なし		対象設備なし	
NOx(ppm)				
ばいじん(g/Nm3)				

■水質

物　質	土浦製造所		つくば製造所	
	実績値	規制値	実績値	規制値
水素イオン濃度(pH)	8	6.0～8.6	7.4	5.8～8.6
BOD(mg/l)	1.5	10以下	6	25以下
COD(mg/l)	4.7	10以下	14	25以下

■PRTR対象化学物質の量

PRTR 対象化学物質名	単位	取扱量	排出量			移動量		場内無害化
			大気への排出	公共用水域への排出	当該事業所における土壌への排出	下水道への排水の移動	廃棄物の当該事業所の外への移動	
6価クロム化合物	トン	0.5	0	0	0	0	0	0
鉛及びその化合物	トン	2.3	0	0	0	0	0	0

石川工場

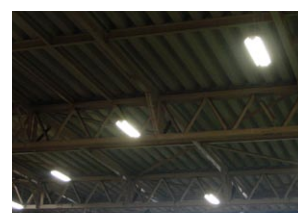
石川工場

所　在　地：石川県能美市吉原釜屋町ロ－1
主要生産品目：梱包資機材・農業資材
設 立 年 月：1972年4月
敷 地 面 積：68,078㎡

石川工場

省エネルギーへの取り組み

生産部門においては、勤務体制の見直しによる効率生産化の実施やコンプレッサーエアー漏れ改善などを行いました。
照明においても生産部門における水銀灯から蛍光灯への随時切り替えや、厚生棟へのLED照明の導入も進めています。

厚生棟 LED照明の導入

工場内照明の蛍光灯への切り替え

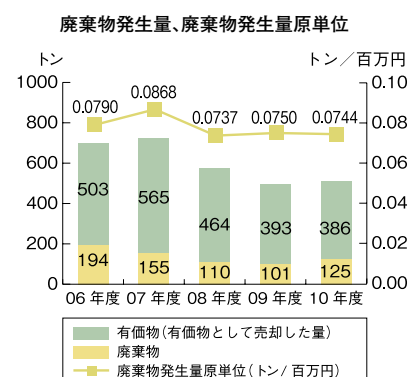
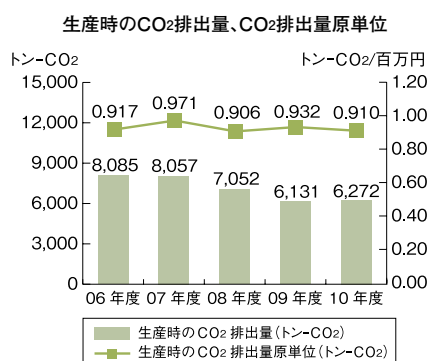
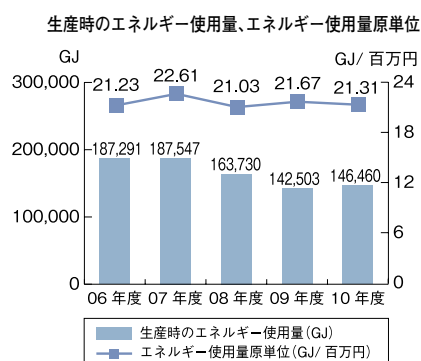
地域との環境コミュニケーション

工場の活動・環境への取り組みなどを理解していただくために、地元高校の工場見学会を開催いたしました。
また、地元団体と共同したペットボトルキャップリサイクルへの取り組みも開始しています。

工場見学会 石川県立工業高校

生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位

生産時のCO2排出量、CO2排出量原単位

廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位

■大気

物　質	実績値	規制値
SOx（K値）	0.078	17.5 以下
NOx（ppm）	52	950 以下
ばいじん（g/Nm3）	0.007	0.10 以下

■水質

物　質	実績値	規制値
水素イオン濃度（pH）	7.4	5.8～8.6
BOD（mg/l）	1.0	60
COD（mg/l）	2.4	60

■PRTR対象化学物質の量

PRTR 対象化学物質名	単位	取扱量	排出量			移動量		場内無害化
			大気への排出	公共用水域への排出	当該事業所における土壌への排出	下水道への排水の移動	廃棄物の当該事業所の外への移動	
キシレン	トン	1.4	1.4	0	0	0	0	0
トルエン	トン	2.0	2.0	0	0	0	0	0

積水樹脂プラメタル株式会社

本社工場

所　　在　　地：長野県上伊那郡辰野町大字小野795－1
主要生産品目：機能面材・アルミ樹脂複合板
設　立　年　月：1966年6月
敷　地　面　積：20,470㎡

本社工場

関東工場

所　　在　　地：茨城県牛久市桂町2220－3
主要生産品目：機能面材・アルミ樹脂複合板

関東工場

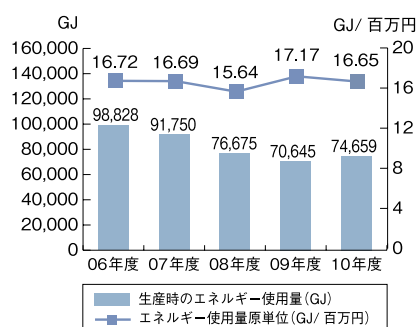
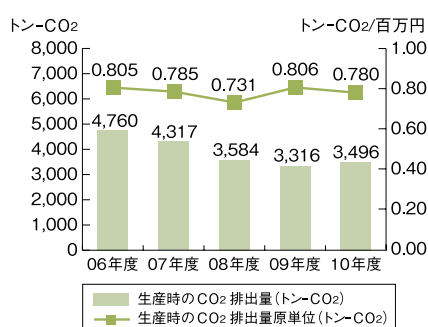
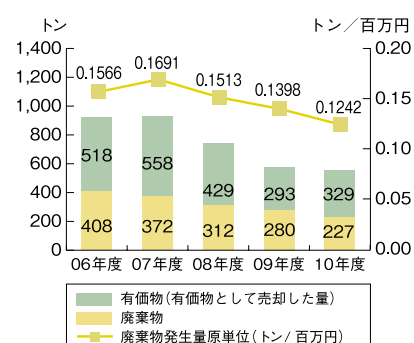
安全への取り組み

KYT・リスクアセスメントの教育を定期的に実施し、作業者に対する安全意識の向上をはかっています。
本社工場では2010年度に無災害日数1000日を達成いたしました。

従業員への安全教育

環境貢献活動への取り組み

生産プロセスの見直し、設備の省力化を行い、原単位当たりのエネルギー使用量・CO_2排出量を削減できました。

生産時のエネルギー使用量、エネルギー使用量原単位

生産時のCO2排出量、CO2排出量原単位

廃棄物発生量、廃棄物発生量原単位

■大気

物　質	本社工場		関東工場	
	実績値	規制値	実績値	規制値
SOx（K値）	未検出	14.5以下	―	※該当せず
NOx（ppm）	26	230以下	10以下	46
ばいじん（g/Nm3）	0.005	0.2以下	―	※該当せず

■水質

物　質	本社工場		関東工場	
	実績値	規制値	実績値	規制値
水素イオン濃度（pH）	対象設備なし		8.0	5.8～8.4
BOD（mg/l）			3.5	20以下
COD（mg/l）			11	20以下

■PRTR対象化学物質の量

PRTR 対象化学物質名	単位	取扱量	排出量			移動量		場内無害化
			大気への排出	公共用水域への排出	当該事業所における土壌への排出	下水道への排水の移動	廃棄物の当該事業所の外への移動	
エチルベンゼン	トン	12.6	0.1	0	0	0	0.4	12.1
キシレン	トン	12.5	0.1	0	0	0	0.3	12.1
1,3,5－トリメチルベンゼン	トン	2.1	0.0	0	0	0	0.0	2.1
トルエン	トン	1.6	0.0	0	0	0	1.5	0.1

社会性報告

これからも社会から信頼され続ける企業であるために

積水樹脂グループは企業の社会的責任(CSR)を果たすため、企業人としてどのように行動すべきかを定めた「積水樹脂グループ企業行動指針」に基づき、CSR活動を進めています。

■積水樹脂グループ企業行動指針

<人権の尊重>

1. 国内・外を問わず人権を尊重し、平等・公平に行動するとともに、従業員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい職場環境を確保します。

<社会的責任>

2. 顧客のニーズにかなう安全な製品・サービスを提供するとともに、正しい製品情報を適確に提供し、顧客の信頼と満足を獲得します。
3. 公正かつ適正な取引関係の上に取引先との信頼関係を築き、相互の発展を図るとともに社会的信頼を高めます。
4. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。

<法令等の遵守>

5. あらゆる企業活動において法令・社内ルール等を遵守し、公正な企業活動を遂行します。
6. 個人情報や会社の機密情報は厳正に管理します。
7. 政治・行政とは健全かつ透明な関係を維持します。

<反社会的勢力への対応>

8. 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは関係をもちません。

<社会・環境との調和>

9. 国内・外を問わず、その文化や習慣を尊重し、地域社会との共生を目指します。
10. 環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、積極的に推進します。

積水樹脂グループは企業の社会的責任をはたすべく、主に以下の事項に取り組んでいます。

労働安全衛生活動

積水樹脂グループ全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組んでいます

グループ共通の安全衛生方針を定め、各種安全衛生活動を推進しています。

（主な取り組み）
・安全衛生教育の実施
・外部機関による安全診断

品質管理活動

お客様に満足いただける製品を提供するため、全社で品質管理活動に取り組んでいます

開発・設計・製造部門を通して一貫した品質管理体制を構築し、製品の品質向上に取り組んでいます。

（主な取り組み）
・ISO9001認証取得の継続
・道夢道での品質検証

従業員と社内風土

未来を拓く、クリエイターを限りなく輩出する風土づくり

安全と健康に配慮した環境を確保し、キャリア開発を積極的に支援することで、従業員と会社が共に継続的に成長できる組織風土づくりに努めています。

（主な取り組み）
・社内公募制度
・SJC塾

社会貢献活動・コミュニケーション活動

ステークホルダーのみなさんから信頼され、愛される企業を目指します

積水樹脂グループは、ステークホルダーのみなさんから信頼され、愛される企業を目指し、社会貢献活動やコミュニケーション活動を進めています。

（主な取り組み）
・新製品発表会2010の開催
・地域に根ざした防犯活動の実施

コンプライアンス・コーポレートガバナンス・リスクマネジメント

経営基盤であるコンプライアンス、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント体制の強化をはかっています

これからも社会から信頼され続ける企業であるために、経営基盤であるコンプライアンス、コーポレートガバナンス、リスクメネジメント体制のさらなる強化をはかっています。

（主な取り組み）
・「コンプライアンス解説 ハンドブック」を活用した教育の実施

積水樹脂グループ全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組んでいます。

積水樹脂は、グループ全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、安全衛生方針を定め、各種安全衛生活動を推進しています。

安全衛生方針

安全衛生方針を定め、各種安全衛生活動を推進しています。

安全衛生方針

積水樹脂グループ全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組みます。

① 全従業員が「安全最優先」のもと行動します。
② 労働安全衛生に関連する法令及び各事業所で規程されるルールを遵守します。
③ 安全衛生活動の継続的改善に努めます。

労働災害の発生状況

2010年度は、積水樹脂グループ全体で不休労働災害が2件発生しました（休業災害は0件）。災害が発生した事業所では、原因を追究するとともに直ちに再発防止対策を講じています。

データ編：5年間の推移は41ページ

主な取り組み

安全・衛生教育

重大な影響を及ぼす事故等の緊急事態に備え、消防訓練や防災訓練を定期的に行っています。
また、AEDを設定している事業所では、AEDを使った救命措置の講習会を行っています。

防災訓練

AED救命措置 講習会

外部機関による安全診断

中央労働災害防止協会による安全診断を、毎年主要生産事業所を対象に実施しています。この安全診断で発見された不具合・指摘事項については、速やかに是正を行い、不安全箇所の撲滅、安全な職場づくりに役立てています。

「メンタルヘルスケア研修」の実施

「健康増進法」の法制化を踏まえ、生活習慣病の予防に取り組んでいます。全ての従業員が健康を維持していけるように、定期健康診断を実施し、二次検診や精密検診、保健師による定期的な健康相談を行っています。
また、滋賀工場においては、年間を通じた「メンタルヘルスケア研修」の計画を策定し、外部専門機関からの講師を招き、全従業員を対象とした心身の健康管理を進めています。

メンタルヘルスケア研修

TOPICS

厚生労働大臣 奨励賞を受賞しました！

広島東城工場（広島積水樹脂株式会社）は、安全衛生活動に対する取り組みと実績が評価され、平成22年7月1日に厚生労働省より「厚生労働大臣　奨励賞」を受賞致しました。
当事業所では「平成14年：広島労働局長 努力賞」「平成17年：広島労働局長 優良賞」に次ぐ3度目の表彰です。

お客様に満足いただける製品を提供するため、全社で品質管理活動に取り組んでいます。

開発·設計·製造部門を通して一貫した品質管理体制を構築し、製品の品質向上に取り組んでいます。

推進体制

品質管理委員会を設置しています

各生産事業所ごとに品質管理委員会を設置しています。この委員会では、品質改善やお客様に満足していただける製品作りのため、年度ごとに品質目標·重点実施項目·推進計画を定め、実施状況の管理·フォローを行っています。

品質マネジメントシステム体制

主要生産事業所では、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築し、認証登録を継続しています。

データ編:ISOの認証取得状況は42ページ

主な取り組み

道夢道での品質検証

大規模試験走路「道夢道」には「走踏試験機」や「落錘試験機」、「音響測定試験棟」などの大型試験設備があります。

製品開発では、これらの試験機を活用し、製品の安全性や耐久性の検証を行い、製品品質の確認·改善を行っています。

音響測定試験棟
防音壁や防音めかくし塀などの防音性能を測定するため、周波数分析機器などを使用し性能評価を行っています。

クレームへの対応と再発防止

お客様からのクレームは、各営業部門にて受け付けた後、品質管理部門、製造部門、技術スタッフ部門が協力して再発防止のための調査·実施を行っています。再発防止対策の実施後は、効果の確認を行い対策を継続しています。

品質情報の共有化

クレーム発生状況やPL情報については、社内イントラネットを活用し、品質管理情報として共有化しています。また、公的な認証等を取得している製品の情報についても開示しています。

PL事故予防

PL法は、製造物の欠陥によって、人の生命、身体、財産に被害が生じた場合に、製造業者に損害賠償責任を課するものです。PL事故予防のために、以下の取り組みを行っています。

(1)製品開発段階での危険性予測

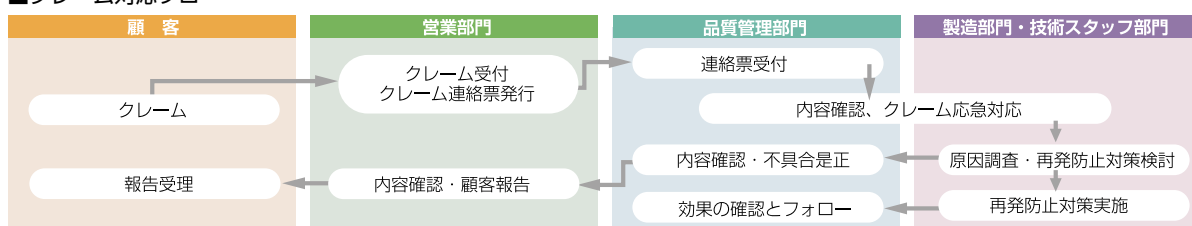
製品に潜在的に存在する危険性を製品化の各段階でチェックし、製品設計に反映させています。

(2)取扱説明書·カタログのPLチェック

「取扱説明書作成ガイドライン」を整備し適切な取扱説明書の作成に役立てています。また、取扱説明書·カタログの表示を事前にチェックし、使用者へ正しい安全情報を提供することに努めています。

(3)PL社内監査

PL社内監査を毎年実施しています。PL事故予防への取り組み状況について監査し、不具合事項があれば改善の指示·指導を行っています。

■クレーム対応フロー

未来を拓く、クリエイターを限りなく輩出する風土づくり

今日の積水樹脂はもちろん、これからの積水樹脂をつくりあげていくのは従業員一人ひとり、すなわち「人財」です。安全と健康に配慮した環境を確保し、キャリア開発を積極的に支援することで、従業員と会社とが共に継続的に成長できる組織風土づくりに努めています。

人権を尊重した企業経営

事業活動に関わるすべての人の人権を尊重するための理解と啓発に取り組んでいます。

健全な労使関係

各事業所において労務委員会を定期的に開催し、従業員の意見･要望が活かされるよう努めています。また、全従業員を対象に仕事へのやりがいや職場環境、人事制度に対する「自己申告」を実施し、寄せられた声から、組織の持つ強み･弱み、改善点を明らかにし、各種制度や施策に反映させています。

人権の尊重

企業活動の根幹をなすのは「ひと」であり、企業の内外を問わず、その活動に関わるすべての人の人権を尊重し、これを守ることは、企業の使命です。積水樹脂では、「基本的人権の尊重」の精神を遵守していくため、企業の社会的責任を自覚し、様々な研修を通して、人権問題の理解と啓発に取り組んでいます。

従業員･組織の活性化

従業員が仕事に誇りを持ち、自らがチャレンジできる環境整備に取り組んでいます。

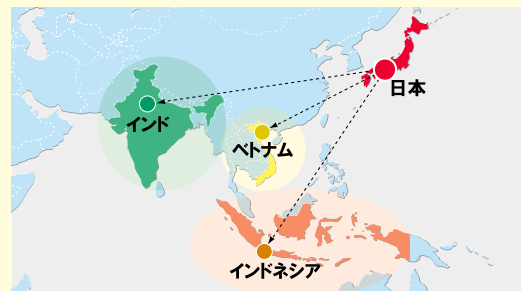
社内公募制度

従業員一人ひとりの適性を見極め、最適な配置を最適なタイミングで実現していくことは、重要な企業戦略といえます。従業員のモチベーションを高め、高い成果のアウトプットを期待するためには、会社ニーズにおける異動に加え、本人の意志･適性とのマッチングを図ることが大切であることから、従業員の意向を踏まえ、自ら手を挙げる「社内公募制度」を導入しています。今後も、従業員のキャリア形成とチャレンジできる風土づくりを支えるため、積極的に取り組みます。

社内表彰制度

従業員の業務活動への意欲や成果を引き出すために、業績に貢献した従業員に対して創立記念業績表彰を実施しています。
毎年、社内で厳正な審査を行い、従業員のモチベーションアップをはかっています。

TOPICS 事業拡大に向けた市場調査へ

社内公募で選ばれた3名の若手従業員を、道路インフラ整備に意欲的な新興国(インド･ベトナム･インドネシア)へ市場調査のため派遣しました。今後、グローバルに事業を加速していくなかで、国際舞台で活躍したいと考える意欲の高い従業員が、活躍できる機会を提供し、また、グローバルに活躍できる人材の育成にも取り組みます。

多面観察調査

従業員の自己啓発を図る施策として、「多面観察」を実施しています。この調査では、自分の「特性」や「強み･弱み」などを客観的に認識でき、個々が結果を受け入れやすいことから、自己成長のツールとしています。

個々の可能性を引き出す人材育成

自己啓発意欲をはかり、企業人としての良識と幅広い専門知識の獲得を目指す人材育成に取り組んでいます。

人材育成「SJC塾」

積水樹脂の将来を担う人材の育成を目的に、「SJC塾」を2010年に開設しました。経営マネジメントや経理知識、マーケティングなど経営全般にわたる幅広いテーマで講義が行なわれます。社内公募に基づき選出された約30名が職級別に3クラス、全3回の講義を受講します。「積水樹脂による、積水樹脂のため」を実践すべく、社長をはじめ経営陣自らが教鞭を執るなど「手造り」が特長です。

SJC塾において

技術教育研修

メーカーの生命線ともいえる「コア技術」は、大切な財産です。この貴重な財産を多くの人が共有し、確実に後世に残していくために、従業員自らが講師となる社内スクーリング方式を採用し、"技術伝達"、"技能伝承"を効率よく実施しています。

技術教育研修において

快適な職場環境づくり

従業員がゆとりと豊かさを実感でき、活き活きと働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

ワーク・ライフ・バランスの推進

従業員一人ひとりの仕事と家庭との両立を支援し、多様な職場環境づくりを進めることにより、企業の持続的発展に貢献することを目指しています。年次有給休暇取得の推進を目指した「リフレッシュ休暇制度」や育児休暇制度、育児短時間勤務制度など、ゆとりと働きがいのある職場環境を創出しています。今後も、従業員一人ひとりの仕事と家庭との両立を重視した職場環境づくりに取り組みます。

定年後の再雇用制度

定年退職者を対象に65歳まで再雇用する制度を設けています。働く意欲があれば、培ってきた知識・技術・能力を十分に活かせ、再雇用者と会社の双方にメリットがあります。また、定年後はゆとりある生活をしたいという従業員の声を尊重し、勤務日数や時間を選択できる「サムタイム勤務制度」も設けています。

障がい者雇用

障がいのある方への雇用機会拡大と職場定着を目指し、障がい者と職場が相互に協力して能力を発揮できる環境を、今後も継続して整えていきます。

ステークホルダーのみなさんから信頼され、愛される企業を目指します

積水樹脂グループは、ステークホルダーのみなさんから信頼され、愛される企業を目指し、社会貢献活動やコミュニケーション活動を進めています。

2010年を「社会貢献元年」と位置付け、社会貢献活動を行なってきました。

積水樹脂グループは、2010年を「社会貢献元年」と位置付け、各分野に対する社会貢献活動を行なってきました。ここでは、「特集ページ（7ページ）」以外の社会貢献活動を紹介します。

地域社会への貢献

地域に根ざした防犯活動

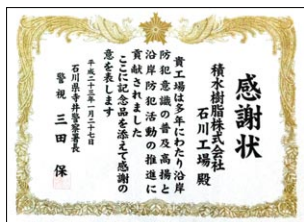
当社の石川工場では、2001年より地域に根ざした防犯活動として、警察と合同で能見市沿岸の夜間パトロールを行なってきました。

2010年度、この長年の取り組みが能見市沿岸線の治安維持に貢献したとして石川県寺井警察署より感謝状をいただきました。

感謝状

積水樹脂株式会社
石川工場 殿

貴工場は多年にわたり沿岸防犯意識の普及高揚と沿岸防犯活動の推進に貢献されました
ここに記念品を添えて感謝の意を表します

平成二十三年一月二十七日
石川県寺井警察署長
警視 三田 保

清掃・美化運動の実施

当社グループの各生産事業所では、事業所近辺の道路沿いや空き地のゴミ拾いなど、清掃や美化運動活動を定期的に実施しています。

地域清掃活動（広島東城工場）

地域の行事への参加・協賛

各事業所の立地する地域で行われている行事に参加・協賛することで、地域社会とのコミュニケーションをはかっています。

■ 主な地域行事への協賛

- ほたる祭り（長野県上伊那郡辰野町）
- ふれあい東城祭り（広島県庄原市）
- 祖生ふるさとまつり（山口県岩国市）

スポーツイベントへの協賛

日韓の親善サッカーフェスティバルへの協賛

日本と韓国の少年サッカー友好の架け橋として開催された「ジャパン・コリア親善サッカーフェスティバル」に昨年に引き続き協賛しました。

「テニス感謝祭2011」への協賛

テニスを通して次世代を担う子供達や家族の交流を深めるとともに、市民の健康、体力の向上を目的として開催された「雄踏総合公園 テニス感謝祭2011」に協賛しました。

TABLE FOR TWO プログラムへの参加

当社は2008年5月から大阪本社の社員食堂で、TABLE FOR TWOプログラムに参加しています。このプログラムは対象となる食事を購入することで、1食につき20円の寄付金が、TABLE FOR TWOを通じて開発途上国の子どもの学校給食になります。

ステークホルダーとの積極的なコミュニケーションをはかっています

積水樹脂グループは、CSR活動をステークホルダーのみなさんに正しくお伝えするために、環境・社会報告書やホームページを活用し、情報を積極的に公開するとともに、展示会や工場見学会などを通じたコミュニケーションにも取り組んでいます。

TOPICS

第11回を迎えた新製品発表会 1700人を超えるお客様にご来場いただきました

2010年9月3日に、滋賀工場・竜王鏡製造所内の「道夢道」全域、R&Dプラザにて今回で第11回目となる「新製品発表会2010」を開催しました。
今回の新製品発表会では環境配慮型新製品を中心として「人に優しく環境に優しい、地域に活力を生む製品のご提案」～これからの街づくり・道づくりに向けて～ をテーマに各種性能試験、実演展示を行い、全国より約1700人を超えるお客様にご来場いただきました。

■ 防災公園提案コーナー

ソーラー照明灯や防災対応パーゴラ、災害用緊急トイレなど一同に展示し、防災公園整備に向けた製品を展示提案しました。

■ 自転車道提案コーナー

自転車通行環境整備での道路幅員を再現し、自転車走行を体験できる空間で製品を展示。歩行者への安全配慮型製品や駐輪場製品など自転車道整備に役立つ製品を展示提案しました。

工場見学会を随時実施しています

地域のみなさんに、工場の活動や環境への取り組み等を理解していただくために、工場見学会、製品説明会、就労体験を随時実施しています。

地域の小学生への工場見学会（東北積水樹脂）

年2回決算説明会を開催しています

当社は、証券会社アナリスト、機関投資家、ファンドマネージャー等に対する決算説明会を年２回開催しています。
2010年度の決算説明会では、社長より、決算内容や年度計画、そして新たに策定した「経営ビジョン2020」や中期経営計画「JEX－2013」について説明を行い、参加者のみなさんに積水樹脂グループが目指す姿をご理解いただきました。

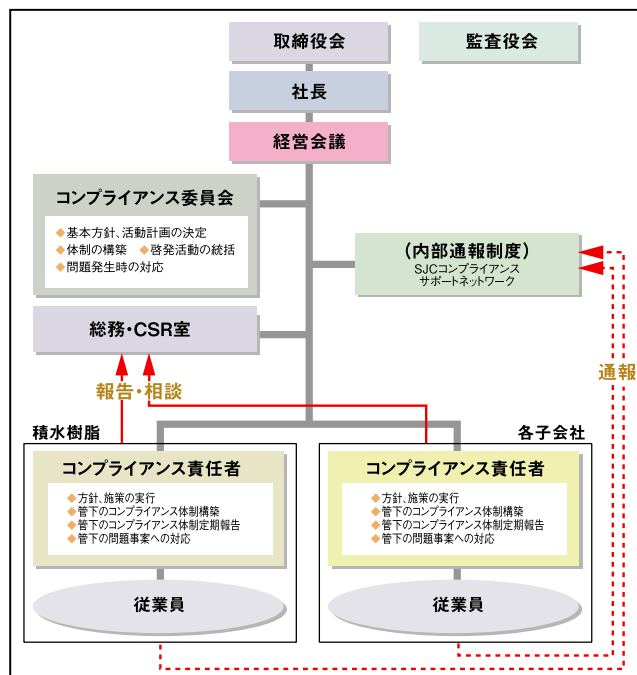
経営基盤であるコンプライアンス、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント体制の強化をはかっています。

これからも社会から信頼され続ける企業であるために、経営基盤であるコンプライアンス、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント体制のさらなる強化をはかっています。

コンプライアンス

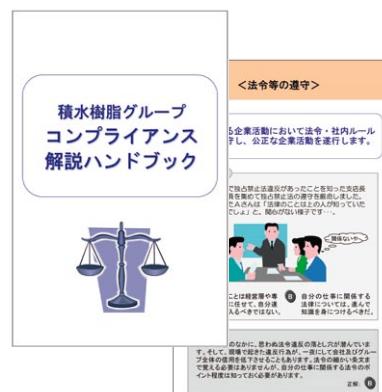
積水樹脂グループは、コンプライアンスを「法令や社内ルールを守ることはもちろん、企業倫理に基づき誠実に行動すること」ととらえ、一人ひとりが、日々の業務の中でコンプライアンスを実践しています。

コンプライアンス体制

当社グループのコンプライアンスについては、管理部門管掌取締役を委員長とする「コンプライアンス委員会」が統括・推進するとともに、当社グループ各事業所に「コンプライアンス責任者」を置き、コンプライアンス体制の維持・強化をはかっています。
また、当社グループは、2005年より、不正、違法、反倫理行為の早期発見と迅速な是正のために、当社グループの全役員・従業員が利用できる「社内通報制度」を導入しています。

コンプライアンス定期報告

コンプライアンスに関する問題の未然防止・早期発見をはかるとともに、全社的な施策の検討・実施に活用するため、各事業所のコンプライアンス責任者からコンプライアンス委員会へ活動状況や課題等を定期的に報告する仕組みを構築しています。

コンプライアンス解説ハンドブック

当社は、従業員一人ひとりが、コンプライアンスについて理解を深めるよう、「コンプライアンス解説ハンドブック」を作成し、グループの全役員・従業員に配布しています。2010年度は、このハンドブックを活用し、コンプライアンス教育を積極的に推進しました。

その他の取り組み

・個人情報の保護体制
・諸団体への入会、寄付、賛助広告を通じて、法令違反行為（またはそのおそれ）がないか、一元的にチェックする体制の構築

TOPICS
従業員の「声」を反映させたコンプライアンス施策

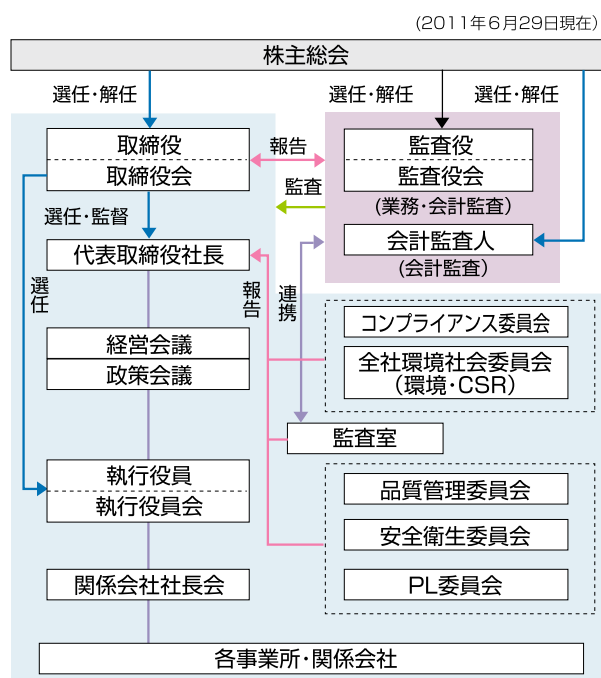
より充実したコンプライアンス施策を検討するため、全役員・従業員を対象に、「コンプライアンス解説ハンドブック」の活用状況や意見・要望等についてのアンケートを2010年6月に実施しました。
アンケートの結果、このハンドブックは「自分の行為がコンプライアンスの観点から問題がないかを確認するための指標」、「コンプライアンスを理解するための学習ツール」として活用されていることがわかりました。
また、「コンプライアンスについてもっと掘り下げて学習したい」という声が多かったため、法務部門がコンプライアンスに関する情報発信を定期的に行い、コンプライアンス教育を推進しました。

コーポレートガバナンス

経営環境の変化に対応するためには、効率的な経営が必要であり、そのための経営の透明性向上、意思決定の迅速化を進めるうえで、コーポレートガバナンスの確立が重要だと考えます。

コーポレートガバナンス体制

当社では、経営責任を明確にするため、取締役の任期を1年としているほか、社外取締役を2名選任し、取締役会における監督機能の強化と意思決定の強化をはかっています。
また、取締役会が決定した方針を適確・迅速に執行するため、執行役員制度を導入しているほか、取締役会の効率性を確保するため、原則として社内取締役によって構成される経営会議において、常勤監査役出席のもと、十分な事前審議を行っています。
そして、監査役会は4名で構成しており、うち2名が社外監査役です。監査役会は定期的に開催され、監査結果等について報告・意見交換がなされています。

(2011年6月29日現在)

リスクマネジメント

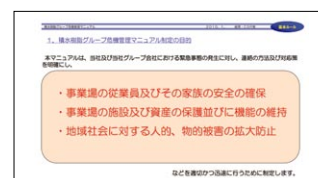
事業活動全般にわたって生じうるリスクの発生防止に努めるとともに、重大なリスクが発生した場合には迅速・適確な対応をはかるため、全社的な方針や体制を整備しています。

リスクマネジメント体制

当社グループは、全社的な方針に基づくリスク管理体制を構築しています。
また、「品質」、「安全」、「環境」に関するリスクについては、それぞれ専門の委員会を設置し、その他のリスクについては各担当部署においてリスクの管理を行なっています。

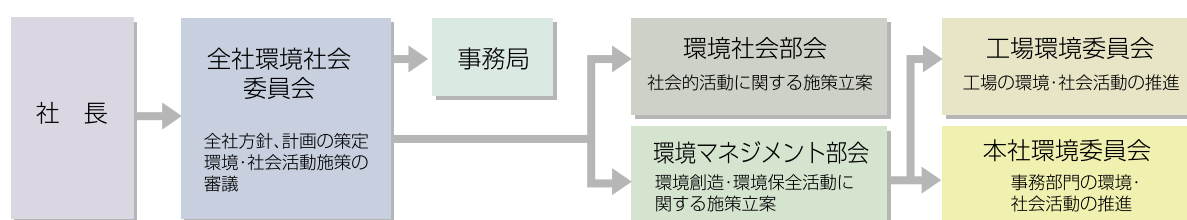
項目	委員会名称	委員会の取り組み
品質	品質管理委員会	製品の品質管理に関する取り組みの推進
安全	安全衛生委員会	工場の労働安全衛生環境に関する取り組みの推進
環境	全社環境社会委員会	環境・社会活動に関する全社方針・計画策定・施策の審議

危機管理マニュアル

当社グループを取り巻くリスクが現実となった場合の連絡や対応の手順を明確にし、社会に対する責任を果たすとともに、会社の被害・損失の最小化と企業活動の早期回復をはかるため、「危機管理マニュアル」を定めています。
このマニュアルでは、大規模災害、製品事故、法令違反など個々のリスクに応じて、それぞれの対応の手順を定めています。なお、当社では環境の変化に対応するため、必要に応じて、このマニュアルの内容を見直しています。

危機管理マニュアルの一部

データ編

環境推進体制

これまでの環境活動にあわせて社会的活動を総合的に推進するため、環境マネジメント部会において環境創造・環境保全活動に関する施策を、環境社会部会において社会的活動に関する施策を立案する体制としています。立案された施策は全社環境社会委員会に付議されて審議決定され、施策は各事業所に伝達されて推進実行されます。

環境活動のあゆみ

年	内容
1998年	「環境経営理念」・「環境経営方針」を制定 環境経営革新運動「JEEEP」を導入
2000年	環境経営革新運動「JEEEP」の業績優秀者を表彰する制度を開始
2001年	「環境経営推進委員会」を設置 「環境経営推進委員会」を受けて「全社環境委員会」を設置 滋賀工場、石川工場、土浦つくば工場においてISO14001の認証を取得 第1次環境3ヵ年計画を策定 地球環境調和型製品基準を制定 グリーン購入基準（事務用品）を制定
2002年	環境会計を導入 環境報告書の発行を開始 石川工場においてゼロエミッションを達成 グリーン購入基準（資材）を制定
2003年	環境社内監査を開始 紙巻（コア）のない自動梱包用結束バンド「コアレス」が平成15年度資材循環技術・システム表彰 「財団法人クリーンジャパンセンター会長賞」を受賞 滋賀工場、土浦つくば工場においてゼロエミッションを達成 第2次環境3ヵ年計画を策定
2004年	広島東城工場、積水樹脂プラメタル㈱、東北積水樹脂㈱においてISO14001の認証を取得 広島東城工場、積水樹脂プラメタル㈱、東北積水樹脂㈱においてゼロエミッションを達成
2005年	環境面のみならず、社会面への取り組みを明確にするため、従来の全社環境委員会を「全社環境社会委員会」に変更 非生産部門の環境活動強化のため、工場環境委員会と並列して「本社環境委員会」を新規に設置
2006年	本社・事業部、スペーシア㈱においてISO14001の認証を取得 法務部門の充実、CSRの対応強化のため、「法務・CSR室」を独立組織として設置 第3次環境3ヵ年計画を策定
2007年	関東積水樹脂㈱、積水樹脂電子テクノ㈱、ロードエンタープライズ㈱、積水樹脂プラメタル㈱関東工場 においてゼロエミッションを達成
2008年	本社部門ISO14001活動において、関東支店を取得拡大 積水樹脂産商㈱、三重積水樹脂㈱、宮崎積水樹脂㈱においてゼロエミッションを達成
2009年	積水樹脂産商㈱にてFSC認証を取得 国際生物多様性年国内委員会の活動への協賛 第4次環境3ヵ年計画を策定
2010年	中期経営計画（JEX-2013）を策定、2010年を社会貢献元年と位置づけ 各分野に対する社会貢献活動を推進

環境会計

積水樹脂は環境保全活動に要した費用、それから得た環境保全効果とそれにともなう経済効果を定量的に把握して評価し、より効率的な環境保全活動の推進をはかっています。
環境会計の手順については、環境省の環境会計ガイドラインをもとに積水樹脂独自の考えを加えて、積水樹脂グループ共通の環境会計手順書を定めています。また、データの精度向上のために、この手順の見直しを行い、各データの算出と集計を行っています。

■ 環境保全コスト

(単位／百万円)

項目			2008 年度		2009年度		2010年度	
分類		主な取り組み内容	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト	①公害防止コスト	公害防止対策	8	18	3	23	8	47
	②地球環境保全コスト	温暖化防止対策	11	47	23	43	12	55
	③資源循環コスト	資源投入量の削減 廃棄物の削減	19	108	30	72	16	140
(2) 上・下流コスト		グリーン調達 地球環境調和型製品の特注設計	2	51	0	12	0	26
(3) 管理活動コスト		環境マネジメントシステムの構築・運用 環境教育 緑化・美化・清掃活動	0	45	0	54	0	108
(4) 研究開発コスト		地球環境調和型製品の研究・開発	31	355	34	342	22	347
(5) 社会活動コスト		環境関連展示会への出展	0	0	0	0	0	1
(6) 環境損傷対応コスト		土壌汚染、自然破壊等の修復	0	0	0	0	0	0
合計			71	624	90	547	58	723

(単位／百万円)

項目	2008 年度	2009年度	2010年度
当該期間の投資額の総額	754	443	541
当該期間の研究開発費の総額	1,135	999	989

■ 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス	2008 年度		2009年度		2010年度	
		2008年度実績	環境保全効果(07年度との差)	2009年度実績	環境保全効果(08年度との差)	2010年度実績	環境保全効果(09年度との差)
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	電気使用量(千kWｈ)	40,416	▲5,783	37,096	▲3,320	37,726	630
	燃料使用量(千GJ)	127	▲14	122	▲ 5	120	▲ 2
生産活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	生産時のCO_2排出量(千トン-CO_2)	24	▲4	23	▲1	23	0
	廃棄物発生量 有価物除く(トン)	1,295	▲355	1,167	▲128	1,116	▲51

■ 環境保全対策にともなう実質的経済効果

(単位／百万円)

効果の内容	金額		
	2008年度	2009年度	2010年度
リサイクルによる有価物売却収入	39	17	25
省資源による費用削減	127	75	97
省エネルギーによる費用削減	17	13	16
リサイクルによる廃棄物処理費用削減	50	35	31
その他	0	0	0
合計	233	140	169

対象期間:2010年4月1日～2011年3月31日　集計範囲:対象事業所は以下のとおりです

①自社工場

●滋賀工場 ●土浦工場 ●石川工場 ●広島東城工場

②関係会社

●積水樹脂プラメタル㈱ ●東北積水樹脂㈱ ●積水樹脂産商㈱ ●エスジェイシー寿㈱ ●宮崎積水樹脂㈱
●ロードエンタープライズ㈱ ●関東積水樹脂㈱ ●スペーシア㈱ ●サンエイポリマー㈱ ●積水樹脂キャップアイシステム㈱

③上記生産事業所内に活動主体がある部門

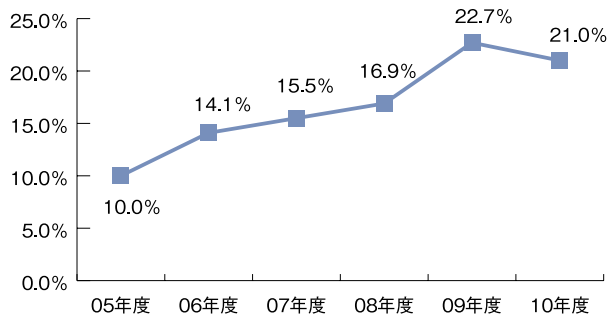
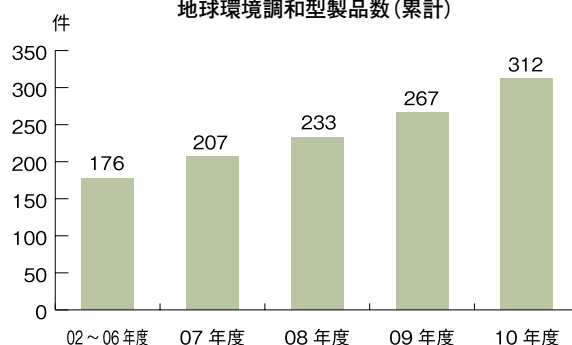
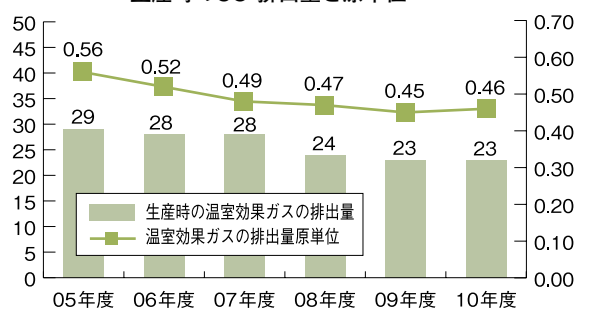
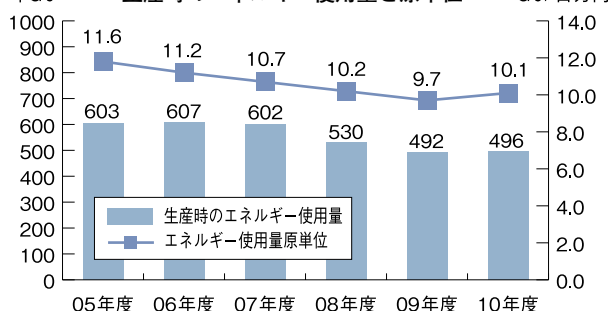
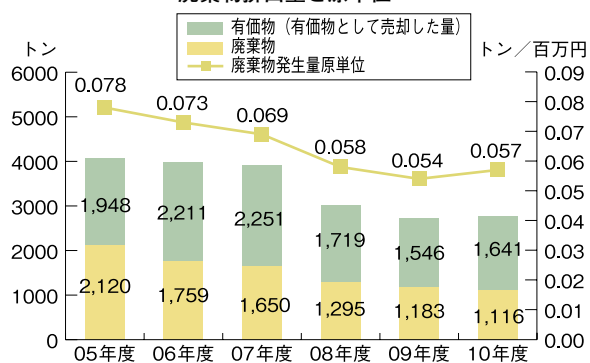
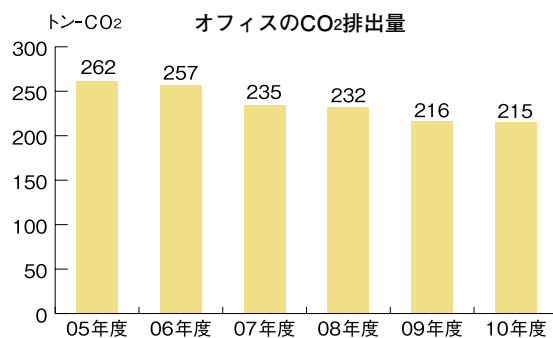
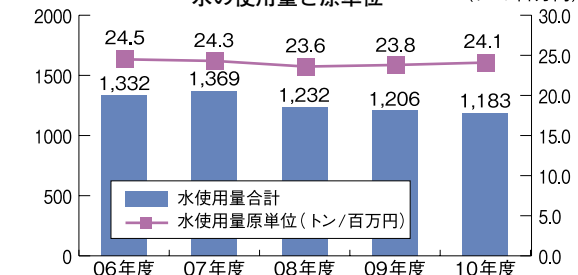
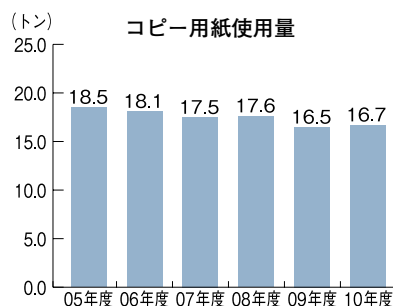
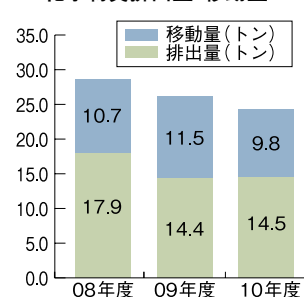
●各事業本部の開発室及び開発グループ ●㈱積水樹脂技術研究所 ●積水樹脂物流㈱ ●オーミテック㈱ ●積水樹脂電子テクノ㈱

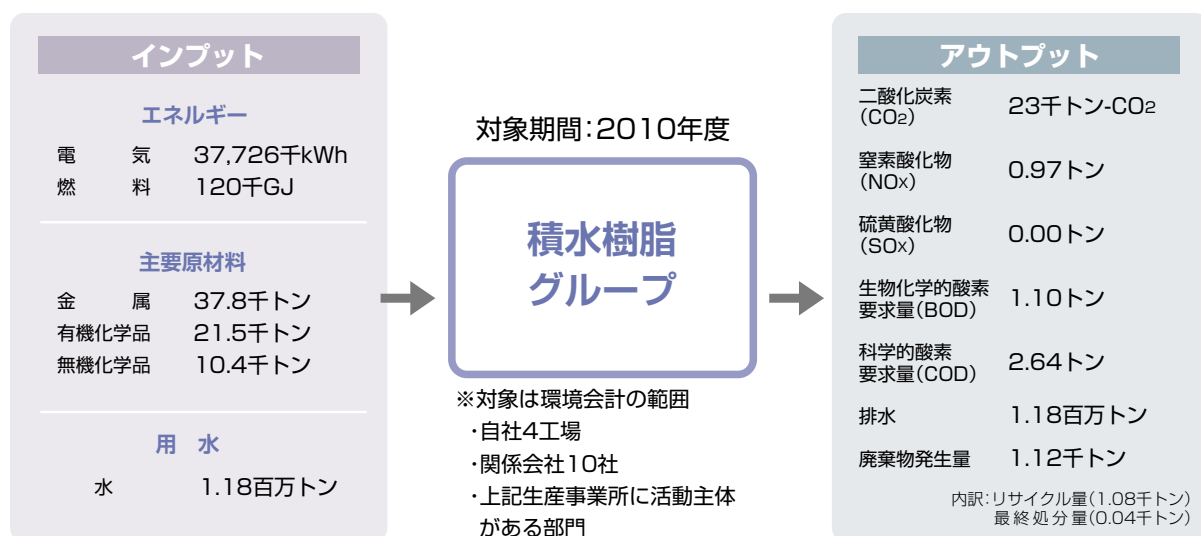
第4次環境3ヵ年計画

2010年度の実績

◎:達成率100%以上　○:達成率90%以上　△:達成率90%未満

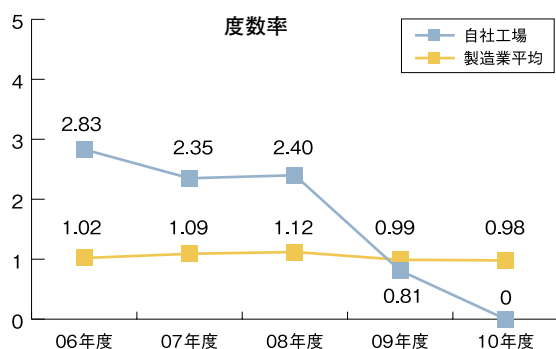
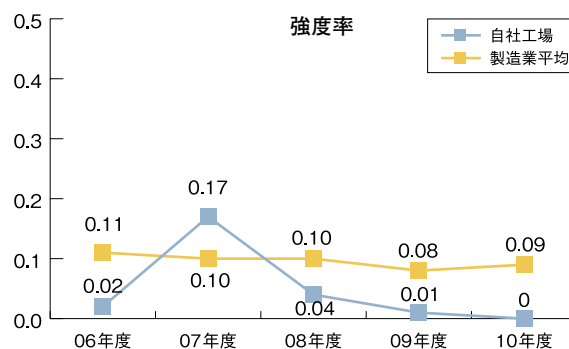
取組みの項目				2012年度目標（3ヵ年）	2010年度実績	2010年度目標	評価
事業・製品による環境貢献	地球環境調和型製品の拡大	地球環境調和型製品の売上拡大		地球環境調和型製品の売上高比率を35%以上	21.0%	25%以上	△
		地球環境調和型製品の開発促進		新製品における地球環境調和型製品比率を40%以上	29.2%	32%以上	○
				地球環境調和型新製品数40件／年以上	45	36件／年以上	◎
事業活動における環境負荷の低減	温室効果ガス排出の削減	活動ごとのCO_2排出量削減	国内生産事業所（関係会社含む）	CO_2排出量を原単位で2005年度比21.5%以上削減	16.9%	20.5%以上削減	△
			国内オフィス（支店営業所）	CO_2排出量を2005年度比20%以上削減	18.1%	19%以上削減（2005年度比）	○
			営業車（関係会社含む）	エコカー・ハイブリットカーの導入率100%	88.7%	導入率60%以上	◎
			海外生産事業所	2011年に目標設定	——	実情調査	○
		省エネルギーの推進	国内生産事業所（関係会社含む）	エネルギー使用量の生産量原単位を2005年度比19%以上削減（省エネ法：エネルギー消費原単位年平均1%削減）	12.6%	17%以上削減（2005年度比）	△
			国内輸送時	エネルギー原単位を2005年度比20%以上削減	17.3%	18%以上削減（2005年度比）	○
	資源の有効活用	廃棄物削減	国内生産事業所（関係会社含む）	廃棄物排出量を2005年度比37%以上削減（場内リサイクル除く、有価含）	32.2%	35%以上削減（2005年度比）	○
				廃棄物排出量を原単位で2005年度比36%以上削減（場内リサイクル除く、有価含）	27.0%	34%以上削減（2005年度比）	△
			国内オフィス（支店営業所含む）	コピー用紙使用量を2005年度比20%以上削減	10.0%	15%以上削減（2005年度比）	△
			海外生産事業所	2011年に目標設定	——	実情調査	○
		ゼロエミッション拡大	国内生産事業所	対象事業所の達成率100%	対象事業所の選定	国内生産事業所のゼロエミッション拡大	○
	化学物質削減	国内生産事業所		PRTR法に基づく化学物質排出・移動量を2008年度比15%削減	14.8%	13%以上削減（2008年度比）	◎
環境経営の基盤強化	環境マネジメント体制の拡大	国内生産事業所のEMS外部認証取得		対象事業所のEMS外部認証率100%	認証継続	認証継続	○
		海外生産事業所のEMS外部取得		2011年に目標設定	——	実情調査	○
		グリーン調達の拡大		FSC認証紙の導入/名刺・カタログへの導入10%以上	名刺への導入検討（2011年度より実施）	FSC認証紙の導入対象の選定	○
	教育・啓発の強化	環境知識の習得		ECO検定取得（全従業員を対象として取得推進）全従業員への環境教育実施	イントラにて環境情報の発信	ECO検定取得環境教育実施	○
	外部とのコミュケーション	サイトレポートの発行		生産事業所、主要関係会社で発行	サイトレポートのHP開示	サイトレポートのHPでの開示	○
		地域との環境コミュニケーション		国内生産事業所で実施	継続して実施	継続的に実施	○
生物多様性への配慮	環境貢献活動	生物多様性民間参画ガイドラインに基づく活動		地球生きものサポーターとして国際生物多様性年国内委員会の活動に協賛	継続して活動	関連団体への寄付	○
				自然環境保護関連団体への支援	継続して実施		○
				地域と連携した自然保護活動（自社工場並びに関係会社）	滋賀サイトにて森林保全活動実施	自社工場並びに関係会社での実施	○

主要な環境パフォーマンスの推移

マテリアルバランス

事業活動におけるエネルギー、原材料などの「インプット」、そして環境への排出量や廃棄物などの「アウトプット」をマテリアルバランスの考えにもとづき環境会計の中で集計しています。

環境関連資格取得者

環境関連資格の取得者に奨励金を付与する報奨制度を設け、資格の取得を奨励しています。

環境関連資格名	取得者累計（2010年度末現在）
公害防止管理者関係	36
エネルギー管理士関係	10
環境マネジメントシステム審査員（補）	1
その他（造園施工管理技士等）	8
特別管理産業廃棄物管理責任者	27

度数率・強度率

度数率：100万延労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、労働災害の頻度を表したものです。

強度率：1,000延労働時間当たりの労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表したものです。

ISO14001認証取得状況

取得事業場名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所及び構内関連企業
滋賀工場	2001年1月19日 JQA-EM1275	・鉄骨加工製品、塗装製品、樹脂押出成形製品の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・株式会社 積水樹脂技術研究所 ・積水樹脂株式会社 開発設計部門
石川工場	2001年3月30日 JQA-EM1487	・PPバンド、PETバンド、被覆鋼管支柱、家庭用ホース及び射出成形品の製造 ・ストレッチ包装機の設計及び製造	北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	2001年6月15日 JQA-EM1614	・路面標示材、メッシュフェンス及び手摺りの製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社　つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社　土浦製造所
積水樹脂 プラメタル㈱	2004年8月27日 JQA-EM4182	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属 ・樹脂複合板の設計・開発、製造及び販売	・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
東北積水樹脂㈱	2004年12月6日 C2010-02347	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標等の交通安全用品の製造	
広島東城工場	2005年3月18日 JQA-EM4627	・路面標示材及び薄層カラー路面舗装材の製造 ・プラスチック擬木及び道路反射鏡の製造	・広島積水樹脂株式会社
スペーシア㈱	2006年10月10日 EC　06J0142	・パイプ、部材やその加工品の製造、販売、開発	
本社・事業部	2007年1月12日 JQA-EM5661	・本社・事業本部の管理業務(秘書・経営企画・総務・人事・経理・購買・監査・知的財産権管理・デザイン・情報管理・営業管理) ・都市環境関連事業、街路・住建関連事業並びに産業・生活関連事業に関する業務	・積水樹脂株式会社　事業本部 ・積水樹脂株式会社　関東支店 ・積水樹脂コーポレートスタッフ株式会社 ・積水樹脂商事株式会社 ・株式会社 エスジェイシーテクノサービス ・積水樹脂産商株式会社 ・関東積水樹脂株式会社

ISO9001認証取得状況

取得事業所名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所
滋賀工場	1998年12月11日 JQA-2853	・メッシュフェンス、防護柵、防音壁、街路照明灯、シェルター、交通安全用品、樹脂押出製品、標識柱、道路反射鏡、計測器(繊維製巻尺)の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・積水樹脂株式会社 開発設計部門
石川工場	1999年3月5日 JQA-3133	・PPバンド、ポリエステルバンド及びプラスチック線(エクセル線)、被覆鋼管支柱直管の設計・開発及び製造	・北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	1999年8月6日 JQA-QM3615	・メッシュフェンス、路面標示材、手摺り、防音壁、防護柵の製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社　つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社　土浦製造所
エスジェイシー寿㈱	2002年7月26日 Q0914	・道路標識の設計、製造および施工 ・道路付属施設(マーキング、防護柵、反射鏡)の施工	・鈴鹿営業所
積水樹脂 プラメタル㈱	2003年7月25日 JQA-QMA10252	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属 ・樹脂複合板の設計・開発、製造及び販売	・本社、本社工場 ・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
サンエイポリマー㈱	2003年9月18日 1116701	・プラスチックバンド及び包装用フィルム加工製品の設計、開発、製造、販売	・本社工場 ・東京営業所 ・大阪営業所
広島東城工場	2004年3月26日 JQA-QMA11212	・路面標示材、エポキシ樹脂を除く薄層カラー路面舗装材、プラスチック押出成形擬木、プラスチック射出成形擬木及び道路反射鏡の製造	・広島積水樹脂株式会社
東北積水樹脂㈱	2004年12月6日 C2010-02346	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標等の交通安全用品の製造	